２０２５年度

事　　業　　報　　告

自　　２０２５年４月　１日
至　　２０２６年３月３１日

公益財団法人
日本科学協会

目　次

第１　概要.....1
第２　事業の状況.....2
1.　「科学振興のための研究助成と研究交流」事業.....2
2.　「日中未来共創プロジェクト」事業.....7
3.　「科学知識の普及・啓発」事業.....11
第３　会議等.....16
第４　その他の重要事項.....19

【別表】
（１）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）……21
（２）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（実践研究）……33
（３）2025 年度海外発表促進助成助成対象者一覧表……34
（４）2025 年度笹川科学研究奨励賞受賞者一覧表……40
（５）2025 年度日中未来共創プロジェクト寄贈実績表……41
（６）2025 年度サイエンスメンタープログラム研究一覧表……42
（７）役員名簿 ……43
（８）評議員名簿 ……44

第１　概要

日本科学協会は、1924（大正 13）年に、その前身である（財）科学知識普及会として設立され、2024 年度に 100 周年を迎えた。一世紀にわたり「次代の科学を担う人材の育成」を主な使命として、活動を展開してきた。

近年、ICT の急速な進展によるテレワークの定着や教育現場でのデジタル化、さらにはSDGs（持続可能な開発目標）への意識高揚など、人々の生活様式や価値観は激変している。

このような社会情勢の変化の中で、持続可能な社会を築くための科学技術イノベーションの重要性は一段と高まっており、若手研究者の育成と、広く一般市民の科学リテラシー向上を一体的に推進することが、現代の社会的課題解決には不可欠である。

また、地球規模の課題解決には国際的な相互理解が欠かせない。特に歴史的・文化的に繋がりの深い中国との間において、図書寄贈や人的交流を通じた相互信頼の醸成を図ることは、本会の重要な役割となっている。

2025 年度の事業実施にあたっては、「研究者の育成」と「日中の相互理解」を二大テーマに掲げ、評議員・理事等の助言および日本財団の助成（ボートレース公益資金）を活用し、以下の通り事業を遂行した。

１．科学・技術に関する若手人材の育成、研究の全国的な掘り起こしを図るため、302 件の科学研究助成を行った。2023 年度から、研究助成金の総額と一人当たりの助成上限額を増額したところ、論文発表数が大幅に増加した。助成金の増額により研究の質が向上し、論文として公表できる成果に結びついたものと思われる。また、助成を受けた研究者の海外での研究成果発表を支援することで、学術成果の広範な浸透・普及を図った。

２．日本で収集した日本関係図書を中国の 36 大学に合計約 60,000 冊寄贈するとともに、中国で「日本研究論文コンクール」、日中両国で「作文コンクール」等を開催し、日中間の相互理解の促進と友好意識の醸成に寄与した。

３．専門家による中高生への研究指導（メンター制度）を実施し、個別指導を通じて若者の探究心を育むとともに、科学を担う後継者の育成に注力した。また、独自に制作した Web コンテンツ（科学実験データベース等）の公開や各種セミナーの開催により、子どもから一般市民まで幅広い層に対し、科学の不思議や面白さを伝える機会を提供した。これにより、社会全体における科学への関心の向上と、科学的素養の醸成に努めた。

第２　事業の状況

１．「科学振興のための研究助成と研究交流」事業

【事業経費：３０６，００１，３３１円（間接経費を除く）】

本事業の１）～６）については、ボートレース公益資金による日本財団の助成金により、７）については、笹川科学活性化基金事業として、８）については、自主財源で実施した。

（１）内　　容

1）若手研究者の研究奨励（学術研究）

① 名　　称：笹川科学研究助成

② 対象領域：人文・社会科学および自然科学（医学を除く）

③ 助成件数：290 件（2024 年度：298 件）

④ 助成金額：257,963,727 円　（1 件当たり平均金額 889,530 円）

［別表（１）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）］

⑤ 申請資格：大学院生あるいは大学等の所属機関で非常勤・任期付き雇用研究者であって、35 歳以下の者

※『海に関係する研究』は正規雇用者も含む

2）特定分野の研究奨励（実践研究）

① 名　　称：笹川科学研究助成

② 対象領域：

a. 教員・NPO 職員等が行う問題解決型研究

学校、ＮＰＯなどに所属している方が、その活動において直面している社会的諸問題の解決に向けて行う実践的な研究

b. 学芸員・司書等が行う調査・研究

学芸員・司書等が生涯学習施設の活性化に資する調査・研究

③ 助成件数：12 件（2024 年度：10 件）

④ 助成金額：3,720,164 円（1 件当たり平均金額 310,014 円）

［別表（２）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（実践研究）］

⑤ 申請資格：専門的立場にある者（教員、学芸員、図書館司書、カウンセラー、指導員等）あるいは問題解決に取り組んでいる当事者など

	対象領域	助成件数
学術研究	人文・社会系	30 件
	数物・工学系	30 件
	化学系	40 件
	生物系	142 件
	複合系	48 件
実践研究	教員・NPO 職員等	8 件
	学芸員・司書等	4 件
合　計		302 件

3） 研究成果公表支援（海外発表助成）

① 2025 年度海外発表促進助成

a. 申請資格：笹川科学研究助成を受けた者

b. 助成件数：81 件(2024 年度：78 件)

※別途辞退 4 件

c. 助成金額：20,610,919 円（1 件当たり平均金額 254,456 円）

［別表（3）2025 年度海外発表促進助成助成対象者一覧表］

② 2026 年度海外発表促進助成の募集案内および第 1 期助成計画策定

4） 「笹川科学研究奨励賞」の選出及び授与

①「笹川科学研究奨励賞」の選出

2025 年度笹川科学研究助成者の中から、笹川科学研究助成選考委員会で、16 名（研究領域ごとに 2 名ずつ。ただし、生物系は 4 名）を選出した。選考に当たっては単に研究の内容や成果だけにとらわれず、研究に対する取組み姿勢なども評価した。

［別表（4）2025 年度笹川科学研究奨励賞受賞者一覧表］

②「笹川科学研究奨励賞」の表彰及び研究発表

2024 年度助成者の中から選出された 16 名に対して、笹川科学研究奨励賞を授与し、賞状及び副賞（100,000 円）を贈呈した。また、受賞者の研究発表動画を作成し、Web サイトで公開した。

5） 研究者交流会（研究奨励の会）の開催

2025 年 4 月 18 日（金）にＡＮＡインターコンチネンタルホテル東京において「研究奨励の会」等を開催し、304 名が参加した。

①「研究発表会」

笹川科学研究奨励賞受賞者による受賞記念発表会を開催した。

②「研究奨励の会」

2025 年度笹川科学研究助成の交付決定通知書を手交した。

③「研究者交流会」

若手研究者間の情報交換の会を開催した。

6） 研究助成の推進

① 2026 年度笹川科学研究助成計画原案の作成

a. 募集計画策定等

「募集要項および選考方針」については、笹川科学研究助成事業委員会で、また、「選考基準および選考細則」については、笹川科学研究助成領域別選考委員会の議を得て策定した。各系の中から「海に関係する研究」を重点テーマとして拾い上げることで、より広い意味での海洋関連科学への助成を行うことができた。

実践研究に関しては、昨年度までは「A:NPO・教員等」と「B:学芸員・司書等」の 2 部門に分けて募集を行ってきた。しかし「A:NPO・教員等」に関しては、助成開始から 13 年間が経ち、学術的な内容の申請が増えるなど、開始時の趣旨から乖離してきたことから廃止とした。学芸員・司書等への助成のみとすることで、本会の基本理念である科学を担う若手人材の育成の強化を図る。

b. 公募

大学、研究機関、学会、博物館、図書館等約 2,100 箇所、また過去に笹川科学研究助成を受けた者やその関係者約 6,500 名に募集のためのメール配信を行った。さらに募集ポスターを作成し、大学約 800 箇所に対して送付するなど、広く周知した。

・募集期間：2025 年 9 月 16 日～2025 年 10 月 15 日

・応募件数：1,448 件（2024 年度：1,417 件）の研究計画の申請を受付した。

（学術研究　1,408 件、実践研究　40 件）

c. 助成計画原案の作成

笹川科学研究助成領域別選考委員会での審査選考を経て、2026 年度笹川科学研究助成計画原案を作成した。

② 2024 年度笹川科学研究助成の研究報告書の整備

③ 研究助成実績資料の整備

7）研究成果発表会の開催

過去助成者と企業の連携強化のために、継続的なフォローアップの充実を目指し、「海の産業利用」をテーマとした、研究成果の発表と質疑応答を行い、あわせてテーマに関する最新の取組についての基調講演を実施した。

① 開催時期：2025 年 11 月 14 日（金）

② 開催場所：日本財団ビル 2 階 大会議室

③ テ ー マ：「電力に代わり天然冷熱を利用する」

④ 発 表 者：過去研究者の中から関連研究をしている研究者 3 名

⑤ 参 加 者：海洋分野に関心をもった過去助成者および企業関係者(58 名)

⑥ 協 力 先：一般社団法人 海洋産業研究会

8） 海外若手研究者育成助成

ベトナムの若手研究者を対象に、日本に関する人文・社会科学研究の助成（日越国際交流・海外若手研究者育成助成）を実施した。

① 対 象 者：ベトナムで日本に関する人文・社会科学研究を行う若手研究者

② 助成件数：2 件

③ 助成金額：800,000 円 （1 件当たり平均金額 400,000 円）

［表 2025 年度海外若手研究者育成助成対象者一覧表］

No.	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
1	PHAM QUYNH LIEN	ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学日本研究学	博士後期課程２年	多文化共生社会における日本の国際結婚 ― 在日ベトナム人女性の視点から見る実態	400,000
2	DO HUU NGHIA	ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学	研究生	江戸時代の水上交通網における制度・空間・社会構造の相互作用に関する歴史的研究	400,000

（２）事業成果等

学術研究部門では、2023 年度から助成金１件あたりの上限金額を 1,000,000 円から 1,500,000 円に増額した。その結果、助成期間中に該当年度助成者から発表された論文数は 132 件であり、おおよそ助成者の 2.5 人に１人が発表を行っていることとなる。また、過去助成者からも 195 件の論文発表の報告があり、該当年度と合わせて換算すると、年間助成者全員（約 300 人）が論文発表を行っていることとなり、本助成の成果が広く公開されていることが分かった。助成金の増額により、研究の質を高め、研究の成果を論文として公表できる助成者の増加に寄与したものと考えられる。

申請者の学年別に見ると、修士課程と博士後期課程の申請数はほぼ同数であるが、採択率においては、研究計画の完成度が高い傾向にある博士後期課程の方が高くなっている。修士課程の申請には、研究としては粗削りであるものの、新規性に富んだ着想を含むものも多く含まれている。今後は、より多様で新規性の高い研究を採択していく観点から、修士課程の申請についても採択数を確保していく必要があると考えている。

実践研究部門では、博物館に所属する多数の学芸員等に対する 29 年間の支援が高く評価され、日本ミュージアム・マネージメント学会から「大堀哲記念ミュージアム・マネージメント推進賞」を受賞した。

「研究発表会」および「研究奨励の会」の様子の動画を Web サイト上で公開することで、次年度申請検討者にも本制度の目的やメッセージの周知に努めた。なお、2024 年度奨励賞受賞者による「研究発表会」の動画については、800 回以上再生され、現在研究助成を受けている、もしくは、今後の申請を検討している研究者等の研究意欲の高揚に寄与している。

海外発表促進助成の対象者は、キャリアの浅い研究者や学生が多くを占めている。若手研究者が国際的な舞台で研究成果を発表することは、その後の研究キャリアの形成においても重要な意義を持つ。近年の物価高騰や渡航費の上昇による経済的負担を考慮し、助成金額を増額した。さらに、若手研究者の海外挑戦への機会確保のため、助成件数も増やしている。

海外若手研究者育成助成は、質の高い日本に関する研究を行うベトナムの若手研究者に助成することで、アジアの日本研究の発展に寄与した。また、2024 年度の助成対象者による研究内容は、論文として一冊にまとめた。

２．「日中未来共創プロジェクト」事業

【事業経費：４２，２６５，１０５円（間接経費を除く）】

本事業の１）～３）については、ボートレース公益資金による日本財団の助成金を受けて実施し、４）については、笹川科学活性化基金事業として実施した。

（１）内　　容

１）図書寄贈

国際理解の深化と友好親善の増進に貢献することを目的に、日本国内において出版社、図書館、企業、個人等への提供依頼を経て図書を収集し、寄贈先の教育・研究分野、地域性、蔵書内容等を考慮のうえ各大学等の要望に基づき寄贈図書を選定後、中国の 36 大学に寄贈した。

・図書収集：約 13,000 冊（提供件数：延べ 48 件）
・図書寄贈：合計 59,644 冊

［別表（５）2025 年度日中未来共創プロジェクト　図書寄贈実績表］

２）笹川杯全国大学日本知識大会

中国の大学の日本語学習者の日本理解の深化と日本語教育の振興を目的として、武漢大学で開催予定であった日本知識を日本語で競うクイズ大会については、共催大学側の事情により、開催を中止することとした。

３）作文コンクール

①笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール（中国語版、日本語版）

中国の若者の日本に対する関心喚起と理解深化、日本に関する図書等の読書促進を目的として、日本に関する図書等の感想文コンクールを日中両語で開催した。なお、一等賞受賞者等の日本招聘については、日中情勢を考慮して中止し、2026 年度事業の中で実施することとした。

a. 中国語版
・共催機関：中国外文局アジア太平洋広報センター
・対　　象：16 歳～35 歳の中国人
・応募総数：875 点(2024 年度：336 点)
・審査結果：一等賞 5 点（日本招聘)、二等賞 10 点、三等賞 20 点、
最高組織賞 5 団体（トップ団体の 1 名は日本招聘）

b. 日本語版
・共催機関：中国外文局アジア太平洋広報センター
・対　　象：16 歳～35 歳の中国人
・応募総数：1,738 点(2024 年度：1,904 点)

・審査結果：一等賞 4 点（日本招聘)、二等賞 8 点、三等賞 30 点、
最高組織賞 5 団体

②Panda 杯全日本青年作文コンクール

a. コンクールの開催

日本の若者の対中関心の喚起と対中理解の促進を目的に、“中国”をテーマに日本語で応募の作文コンクールを開催するとともに成績優秀者等の中国訪問を実施した。

・共催機関：中国外文局アジア太平洋広報センター、
中華人民共和国駐日本国大使館
・テ ー マ：「@Japan わたしと中国」
・対　　象：16 歳～35 歳の日本人
・応募総数：884 点（2024 年度：1,014 点）
・審査結果：優秀賞 10 点※、入選 10 点※、佳作 35 点　※2026 年度中国訪問予定

b. 中国訪問の実施

日中相互理解の深化と友好交流の促進を目的として、本コンクールの優秀賞者等に訪中の機会を提供し、現地の若者との交流、文化体験、実地見学等のプログラムを実施した。

・実施時期：2025 年 6 月 25 日～7 月 2 日（8 日間）
・訪 問 先：北京、温州、成都、上海
・訪 中 者：優秀賞、入選受賞者、引率者等合計 47 名
（2022 年度　23 名、2024 年度　24 名）
※2023 年度の受賞者等は、2023 年度に訪中済み

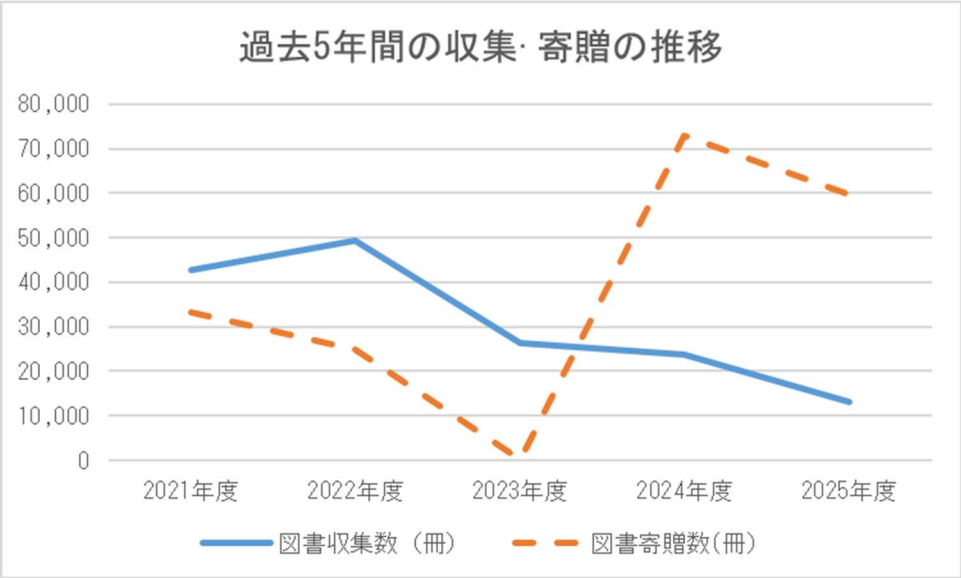
4）笹川杯日本研究論文コンクール

中国の大学における日本研究の促進と日本語教育の振興を目的に、日本に関する研究論文コンクールを開催した。なお、特等賞受賞者の日本招聘については、日中情勢を考慮して中止し、2026 年度事業の中で実施することとした。

・共催機関：中国国際貿易学会日語・国際商務専業教学研究委員会、吉林大学
・対　　象：中国全国の大学の日本語専攻学部生
・応募総数：172 編（2024 年度：201 編）
・審査結果：特等賞 3 編（日本招聘)、一等賞 3 編、二等賞 9 編、三等賞 12 編

（2）事業成果等

図書寄贈において、厳格化する中国側審査への対応、中国公安局への事業登録等により業務が煩雑化する中、ニーズに沿って合計約 60,000 冊寄贈したことは、受贈大学図書館における教育・研究資料の充実と日本理解の深化に繋がったものと期待できる。さらに、中国の大学は、図書の受贈にあたって、中国国内経費（審査、通関、配送料等）として 7 元(約 154 円)/冊を負担しており、本年度の寄贈合計 59,644 冊には約 417,508 元（約 9,185,176 円）の中国国内経費が発生し、各大学は受領冊数に応じてこの経費を負担しているが、このことは寄贈図書に対する中国側の評価や需要の高さを裏付けるものと考えられる。



※2022 年度～2024 年度の寄贈数はアジア諸国への寄贈を含む

また、中国では日中情勢の影響により日中交流活動へのモチベーションが低下している中、「本を味わい日本を知る作文コンクール」(中国語版、日本語版) の開催により、広範な中国の若者に日本について考える機会を提供したことは、対日関心の喚起と理解促進に繋がったと期待できる。日本では中国に対する印象の悪化と関心の低下が危惧される中、母国語で応募可能な日本唯一の中国に関する作文コンクールである「Panda 杯作文コンクール」を開催することにより、中国語学習の有無に関わらず広範な日本の若者に中国への関心と理解を深める機会を提供することができたと期待できる。

なお、本会が笹川平和財団に協力して日中両国で開催した「日中未来創発フォーラム」において、Panda 杯訪中団 OB たちがイベントの企画から運営まで多岐に亘って関与し両国の若者をリードしたことは、日中関係の将来を担うキーパーソンの育成に繋がったものと期待できる。広報面では、人民網を通じて配信した「日本研究論文コンクー

ル」決勝戦動画（プレゼン、口頭試問等）は、再生数が合計 116,100 回（日本語版約 42,200 回、中国語版約 73,900 回）に達するなど大きな反響を得ているが、本動画や優秀論文集等の広範なアウトプットは、日本語学部の学生や教員にとって、論文執筆やプレゼンテーション、口頭試問を実践・指導する際の模範事例を提供するものであり、発展途上にある中国の日本研究論文教育の振興に寄与するものと期待できる。

外部支援獲得については、日本では講談社から CSR の一環として新刊図書約 3,000 冊（定価総額約 3,200,000 円）の寄贈を得た他、中国では 1 企業から「本を味わい日本を知る作文コンクール」（中国語版）に 20,000 元（約 440,000 円相当）の協賛金を得るなど、各事業への理解と共感を獲得することができた。

３．「科学知識の普及・啓発」事業

【事業経費：１６，８２３，２５１円（間接経費を除く）】

本事業の１）、３）、４）については、モーターボート競走法制定 40 周年記念事業として、２）については、主に笹川科学活性化基金事業として実施した。

（１）内　　容

１） 中高生のためのサイエンスメンタープログラム

科学に高い関心を持つ中学生・高校生に対し、学校教育の枠にとらわれずに、専門研究者による科学研究の基礎指導を行った。

また、広く科学研究の基礎の定着を図るため、メンティと中学生・高校生の希望者を対象に、統計の講習を実施した。

① サイエンスメンタープログラム

a. 研究指導数：19 研究 23 名　※うち 7 研究は 2026 年度も指導を継続する。
（2024 年度：24 研究 32 名）

b. 指導方法：メールを主とし、必要に応じて Zoom や実地での対面指導を行った。

c. 期　　間：2025 年 4 月～2026 年 3 月

② サイエンスメンタープログラム研究発表会

a. 第 19 回サイエンスメンタープログラム研究発表会

・開 催 日：2025 年 8 月 3 日
・場　　所：全国町村会館
・内　　容：メンティによる 7 件の研究発表（口頭・ポスター発表）を行った。
・参 加 者：37 名（メンティ 14 名、メンター6 名、関係者等 17 名）

b. 第 20 回サイエンスメンタープログラム研究発表会

・開 催 日：2026 年 3 月 21 日
・場　　所：全国町村会館
・内　　容：メンティによる 13 件の研究発表（口頭・ポスター発表）を行った。
・参 加 者：49 名（メンティ 22 名、メンター11 名、関係者等 16 名）

③ 統計講習・ワークショップ

a. 高校生のための統計講座　～なぜ科学研究に統計が必要なのか？～

・開 催 日：2025 年 7 月 28 日
・開催形式：オンライン
・内　　容：科学研究と統計の関連性についての解説
・参 加 者：高校生 20 名
・講　　師：東郷俊太氏（電気通信大学准教授）

b. 科学研究体験ワークショップ

・開 催 日：2026 年 3 月 7 日、3 月 14 日
・開催形式：オンライン
・内　　容：小型コンピュータ(Raspberry Pi)とセンサーを用いた温度・湿度などの測定および統計解析
・参 加 者：中高生 26 名
・講　　師：陣内修氏（東京科学大学教授）

［別表（6）2025 年度サイエンスメンタープログラム研究一覧表］

2） サイエンスコミュニケーション

科学に関する様々な分野の専門家の知識を一般に広めることを通じて、科学・技術への興味や関心を高める一助となることを目指し、コミュニケーションの機会を設けて啓発活動を行った。

① データ集録ワークショップ「東京スカイツリーで気圧をはかろう」・データ解析実習

a. 開催日：2025 年 8 月 29 日、8 月 30 日
b. 場　所：東京スカイツリー、千葉工業大学東京スカイツリーキャンパス
c. 内　容：東京スカイツリーのエレベーターを利用して、小型コンピュータ(Raspberry Pi)につけたセンサーで気圧を測定し、その値からエレベーターの上昇速度を計算するワークショップを実施した。また、ワークショップの参加者のうち希望者には、オンラインでデータの解析方法を実践的に学ぶ機会を提供した。
d. 参加者：中学生・高校生・大学生　28 名
e. 講　師：はしもとじょーじ氏（神戸大学大学院理学研究科教授）
　　千秋博紀氏（千葉工業大学惑星探査研究センター主席研究員）

3） 科学実験情報の Web 公開

①「科学実験データベース」「コラム」の公開

伝承的な実験から最近開発されたユニークな実験まで、様々な科学実験事例を収集網羅したデータベースを Web サイト上で広く公開した。

a. 委 託 先：兵庫教育大学原体験教育研究会

b. 公開内容：Web サイト上で、原体験コラム 356 点、科学実験データベース 802 点を公開している。今年度は科学実験データベースに 12 点の新規データを追加した。

c. アクセス数：約 34,000 回

②「Web 版科学体験まつり」の公開

子ども達や親世代への科学実験の機会を容易にするため、オンライン上に「Web 版科学体験まつり」を作成し広く公開を行った。

今年度は、映像の分かりやすさを更に向上させるため、映像制作会社に動画の作成を委託した。テロップ等を効果的に使った動画となり、対面での指導と同じように分かり易い実験ブースを作成することができた。

a. 内　　容：Web サイト上で、実験ブース 38 点を公開している。
今年度は新規実験ブースを 4 点追加した。

b. 委 託 先：兵庫教育大学原体験教育研究会

c. 実験・演示：兵庫教育大学原体験教育研究会

d. 撮影・編集：公益財団法人ニッポンドットコム

e. アクセス数：約 20,000 回

4） 子どもたちへの科学実験体験

科学実験を行う機会の少ない島の子ども達を対象とした科学実験教室を沖縄県の久米島と、島根県隠岐諸島の海士町で開催した。

①「科学実験」イベント（久米島）の開催

a. 内　容：小学校の授業の一環として実施し、単なる実験及び観察にとどまらず「推論」「仮説検証」「考察」といった科学的探究プロセスを学ぶプログラムを展開した。

b. 講　師：一般社団法人国際海洋資源エネルギー利活用推進コンソーシアム
岡村盡氏、
株式会社ロート・F・沖縄　中原剣氏、東村俊輔氏、
株式会社ジーオー・ファーム　大澤克磨氏、小野寺良太氏

c. 開催日：2025 年 7 月 1 日、 2 日の 2 回

d. 場　所：久米島町立仲里小学校、清水小学校

e. 参加者：各回小学 6 年生約 30 名（島内小学 6 年生全児童）

②「科学実験」イベント（隠岐諸島）の開催

a. 内　容：音の仕組み、海水に含まれるプランクトンの観察、特産の牡蠣を使った実験等、身近な不思議をテーマとした実験を行った。

b. 講　師：兵庫教育大学 原体験教育研究会　泉伸一氏、福井広和氏

c. 開催日：2025 年 8 月 23 日

d. 場　所：隠岐國学習センター

e. 参加者：小中学生および保護者約 15 名

（2）事業成果等

「中高生のためのサイエンスメンタープログラム」では、資質の高い中学生・高校生が、大学教授などの専門研究者から、一定の期間中科学研究の進め方を学ぶことで、より一層研究に打ち込むようになる、もしくは、早い段階から将来の目標を明確にするなど、生徒には多大な影響を及ぼしている。過去のメンティの中には、推薦入試で研究能力を評価されて大学に進学する者もおり、学業の成績が優秀なだけではない質の高い人材の育成に寄与している。顕著な例では、2025 年度のメンティ 2 名が、サイエンスメンタープログラムで行った研究を第 69 回日本学生科学賞に応募してそれぞれが高い評価を受け、アメリカで行われる国際学生科学技術フェア（Regeneron ISEF）の日本代表に選出された。

また、メンティの他に、科学研究を行っている中学生・高校生を対象として、統計学の講習を実施し、科学研究の基礎的な素養を身に着ける機会を提供した。

「科学実験情報の Web 公開」における「科学実験データベース等」や「Web 版科学体験まつり」では、動画内に映像だけでなく、文字や図を重ねて表示し、原理の説明等も行うなど、分かり易い映像を作成し、子ども達が興味を持って利用しやすくなるように工夫を行った。身の回りの自然に関する興味が高く「春に鳴く虫，クビキリギス」「煮干しから海洋生物」といった実験へのアクセスが多かった。

今年度 3 回開催した科学実験教室については、実験や観察にとどまらず、「仮説検証」や「考察」といった科学的探究プロセスを伝えるプログラムを展開したところ、沖縄県久米島教育委員会からも高い評価を受け、教育長より次年度も継続開催の強い要望が寄せられ、地域教育への貢献を果たした。また、隠岐諸島では、特産の牡蠣を使った水浄化実験や、牡蠣の生産者からの「あたらない牡蠣」の講話などを行い、地域の身近な題材と科学を結びつけることで、地場産業への理解促進と科学への興味・関心の向上を達成した。会場では熱心に実験に取り組む参加者の姿が見られ、質疑応答では主体的な質問や意見が相次ぐなど、子どもたちの探究心を刺激する有意義な事業となった。

なお、科学実験教室（隠岐諸島）及びデータ集録ワークショップについては、独立行政法人国立青少年教育機構「子どもゆめ基金」の助成金で実施したものである。

第３　会議等

（１）理事会

１） 第 39 回理事会

① 開催年月日：2025 年 5 月 26 日（オンラインにて開催）

② 議事事項：

・第 1 号議案　2024 年度事業報告書及び決算報告書の承認に関する件

・第 2 号議案　第 15 回評議員会の開催に関する件

③ 報告事項：

・職務執行状況報告

２） 第 40 回理事会

① 開催年月日：2025 年 10 月 28 日（オンラインにて開催）

② 議事事項：

・第 1 号議案　2025 年度事業計画及び収支予算の変更に関する件

③ 報告事項：

・職務執行状況報告

３） 第 41 回理事会

① 開催年月日：2026 年 3 月 13 日（オンラインにて開催）

② 議事事項：

・第 1 号議案　2026 年度事業計画及び収支予算の承認に関する件

・第 2 号議案　会社役員賠償責任保険の加入に関する件

・第 3 号議案　第１６回評議員会の開催に関する件

③ 報告事項：

・職務執行状況報告

・第 5 回評議員選定委員会の開催に関する件

なお、役員の名簿については［別表（６）役員名簿］のとおり。

（2）評議員会

1） 第 15 回評議員会

① 開催年月日：2025 年 6 月 16 日（オンラインにて開催）

② 議事事項：

・第 1 号議案　2024 年度決算報告書の承認に関する件

・第 2 号議案　役員及び評議員の報酬等及び費用に関する規程の一部改正に関する件

・第 3 号議案　評議員の退職慰労金に関する件

③ 報告事項：

・2024 年度事業報告に関する件

2） 第 16 回評議員会（書面決議）

① 決議があったものとみなされた日：2026 年 3 月 23 日

② 決議があったものとみなされた事項：

・第 1 号議案　理事の退職慰労金に関する件

なお、評議員の名簿については［別表（7）評議員名簿］のとおり。

（3）各種委員会

1） 評議員選定委員会

開催年月日	議事事項
(第 5 回)2025 年 7 月 28 日	評議員の選任について

2） 笹川科学研究助成事業委員会

開催年月日	議事事項
(第 86 回)2025 年 7 月 14 日	2026 年度笹川科学研究助成募集要項等の策定について
(第 87 回)2025 年 11 月 11 日	2026 年度笹川科学研究助成選考方針の策定について
(第 88 回)2026 年 3 月 6 日	1　2026 年度笹川科学研究助成の選考結果について 2　2026 年度海外発表促進助成の募集について

※いずれもオンラインにて開催した。

3） 笹川科学研究助成領域別選考委員会

領　域	開催年月日	議事事項
数物・工学系	2025 年 12 月 9 日	2026 年度笹川科学研究助成の選考細則の策定について（※オンラインにて開催）
化学系	2025 年 11 月 28 日	
生物（A）系	2025 年 12 月 2 日	
生物（B）系	2025 年 11 月 18 日	
複合系	2025 年 12 月 2 日	
海洋関連研究	2025 年 12 月 5 日	
実践系	2025 年 11 月 17 日	
人文・社会系	2026 年 1 月 23 日	2026 年度笹川科学研究助成の申請課題の選考について（※オンラインにて開催）
実践系	2026 年 1 月 21 日	
人文・社会系	2026 年 3 月 13 日	2025 年度笹川科学研究助成に係る完了報告書の評価及び笹川科学研究奨励賞の選出について
数物・工学系	2026 年 3 月 10 日	
化学系	2026 年 3 月 11 日	
生物（A）系	2026 年 3 月 18 日	
生物（B）系	2026 年 3 月 17 日	
複合系	2026 年 3 月 10 日	
海洋関連研究	2026 年 3 月 17 日	
実践系	2026 年 3 月 18 日	

4） サイエンスメンター事業委員会

開催年月日	議事事項
(第 13 回)2025 年 12 月 8 日	2026 年度サイエンスメンタープログラムの募集及び選考について

第４　その他の重要事項

（１）内閣府

年月日	内　　容
2025 年 6 月 24 日	2024 年度における事業報告書等を提出した。
2025 年 9 月 11 日	評議員の交代に係る変更届出書を提出した。
2026 年 3 月 18 日	理事退任に係る変更届出書を提出した。
2026 年 3 月 30 日	2026 年度における事業計画書等を提出した。

（２）日本財団

年月日	内　　容
2025 年 4 月 10 日	2024 年度事業の完了報告書を提出した。 ・科学振興のための研究助成と研究交流（公益） ・科学振興のための研究助成と研究交流（海洋） ・国際理解促進のための図書寄贈と国際交流（公益） ・国際理解促進のための図書寄贈と国際交流（海洋） ・基盤整備（公益） ・基盤整備（海洋）
2025 年 4 月 15 日	2024 年度笹川科学活性化基金に係る報告を行った。
2025 年 10 月 21 日	2026 年度事業実施のため、助成金交付申請を行った。 ・科学振興のための研究助成と研究交流（公益） ・科学振興のための研究助成と研究交流（海洋） ・日中未来共創プロジェクト（公益） ・日中未来共創プロジェクト（海洋） ・基盤整備（公益） ・基盤整備（海洋）
2025 年 9 月 30 日	2024 年度事業の監査を実施した。 （2025 年 12 月 8 日　結果を受理）
2026 年 3 月 13 日	2026 年度の笹川科学活性化基金の取崩に係る承認申請を行った。
2026 年 3 月 26 日	2026 年度事業の助成契約を締結した。 ・科学振興のための研究助成と研究交流（公益） ・科学振興のための研究助成と研究交流（海洋） ・日中未来共創プロジェクト（公益） ・日中未来共創プロジェクト（海洋） ・基盤整備（公益） ・基盤整備（海洋）

（3）子どもゆめ基金（国立青少年教育振興機構）

年月日	内　　容
2025 年 9 月 16 日	「令和 7 年度子どもゆめ基金」へ「島で行う科学実験教室」の助成活動実績報告書を提出した。
2025 年 9 月 26 日	「令和 7 年度子どもゆめ基金」へ「データ集録ワークショップ」の助成活動実績報告書を提出した。
2025 年 10 月 21 日	「令和 7 年度子どもゆめ基金」へ「島で行う科学実験教室」の助成金額の確定通知を受けた。
2025 年 10 月 29 日	「令和 7 年度子どもゆめ基金」へ「データ集録ワークショップ」の助成金額の確定通知を受けた。
2025 年 11 月 26 日	「令和 8 年度子どもゆめ基金助成金」に、次のイベントの助成申請をした。 ・島で行う科学実験教室（久米島） ・実践考古学ワークショップ

（4）その他

・2026 年 1 月に、50,000,000 円の指定寄附（個人からの寄附）を受領し、第 41 回理事会（2026 年 3 月開催）にて報告した。なお、本寄附金の適切な管理・運営に向け、2026 年 5 月開催予定の理事会において、基金規程を整備する予定である。

・公益法人会計に詳しい会計士と顧問契約をし、定期的に伝票等の確認をしている。

・コンプライアンス体制の整備として、コンプライアンス委員会を設置し、職員 3 名を委員に任命した。

・公益財団法人の運営等に関する専門誌を定期購読し、法改正等に対して迅速に対応している。

・役員及び評議員の報酬等及び費用に関する規程の内容を本会のホームページに公開している。

・災害発生時や感染症流行時等の緊急事態に備え、在宅勤務環境を整備し、場所を選ばない業務体制を構築している。

別表（1）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
1	人文・社会	何　琦璠	東北大学大学院国際文化研究科	博士後期課程 4 年	生体自律調整システムから着想した対中国政策の新研究--対支文化事業と日華学会を手掛かりとして	350,000
2	人文・社会	野間　龍一	早稲田大学大学院文学研究科日本史学コース	博士課程 5 年	内務省の防空指導体制の実態と錯誤―官僚の視点を通して見る―	500,000
3	人文・社会	大薗　佳純	國學院大學大学院文学研究科史学専攻	博士後期課程 2 年	戦時期日本の食料政策と陸軍経理組織	500,000
4	人文・社会	AI YU	東北大学情報科学研究科	特任助教	定住化する在日ムスリム女性の日本社会への帰属意識をめぐる人類学的研究	700,000
5	人文・社会	手嶋　啓仁	埼玉大学大学院人文社会科学研究科日本アジア文化専攻	博士後期課程 2 年	先史アンデスにおける公共建造物を介した社会関係に関する研究 ―ワカ・ブラバ遺跡の物質文化と社会動態―	950,000
6	人文・社会	森　奈桜子	筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院人文社会科学研究群国際公共政策学位プログラム	博士後期課程 2 年	多元的社会における「つながり」の人類学的研究―現代モロッコの学校教育と労働への移行を事例に―	650,000
7	人文・社会	藤村　達也	奈良女子大学文学部人間科学科	特任助教	教育産業は大学受験をどのように変容させたか：偏差値の商品化と制度化を中心に	750,000
8	人文・社会	西坂　季恵	東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻	博士後期課程 3 年	「死に方」の人類学：インド・ジャイナ教徒の「死に至る断食」と関連する公益訴訟を事例に	900,000
9	人文・社会	永山　理穂	一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻	博士後期課程 4 年	「女性に優しい職場」で働く女性たち：美容部員の労働からみるジェンダー化された労働の現在	900,000
10	人文・社会	劉　明鍇	九州大学大学院人文科学府東洋史学研究室	博士後期課程 2 年	南明勢力の日本乞師と朝鮮・対馬の情報交渉について	1,000,000
11	人文・社会	宓　婷梅	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ジェンダー学際研究専攻	博士後期課程 5 年	越境する台湾女性僧侶のライフストーリーからみる仏教とジェンダー	850,000
12	人文・社会	徐　燕斌	東京大学大学院人文社会　研究科アジア文化研究専攻東アジア思想文化専門分野	博士課程 4 年	近代東アジアにおける「革命」論	1,020,000
13	人文・社会	藤井　太郎	熊本大学大学教育統括管理運営機構	非常勤講師	18 世紀ニューイングランドの漁業コミュニティによって構築された環大西洋密貿易圏に関する研究	964,898
14	人文・社会	五十嵐　美憂	大阪大学大学院人文学研究科芸術学専攻	博士後期課程 3 年	女性写真家による男性身体表象の日米比較研究	851,494
15	人文・社会	山田　真理子	お茶の水女子大学大学院比較社会文化学専攻表象芸術論領域音楽表現学コース	博士後期課程 4 年	ピアノ奏法理論の社会学的研究―20 世紀初頭の英国音楽科学がピアノ奏法理論に与えた影響に関する考察―	450,000
16	人文・社会	金牧　功大	慶應義塾大学法学部	講師	チベット亡命政権が擁する一次資料を用いた中国共産党のチベット政策の分析	550,000
17	人文・社会	星　鐵雲	立命館大学大学院社会学研究科応用社会学専攻	博士後期課程 3 年	「空襲」を記録する運動の歴史社会学	850,000
18	人文・社会	Ramos　Manon Julie Chloé	京都大学大学院法学研究科法政理論専攻	博士後期課程 4 年	第一次世界大戦からの日本とフランスにおける内閣をめぐる思想および組織化(1914～1932 年)	845,904
19	人文・社会	葉　宇軒	東京大学大学院人文社会　研究科アジア文化研究専攻中国語中国文学研究室	博士課程 4 年	漢字漢文の学から中国文化の学へ：明治時代の東京大学における「中国文化学」の成立	850,000
20	人文・社会	戸塚　史織	立命館大学大学院文学研究科文化情報学専修	博士後期課程 4 年	フレデリック・W・グーキン未刊行資料と勝川派役者絵のデジタルアーカイブによる天明歌舞伎の深化	450,000
21	人文・社会	安部　玄将	東京都公文書館史料編さん担当	公文書館専門員	幕末維新期における伊勢神宮と政治権力・地域との関係－明治 2 年式年遷宮を中心に	800,000
22	人文・社会	内田　賢	一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻	博士後期課程 1 年	「クィア災害研究」を構築する：ポスト 3・11 東北地方における性的マイノリティの政治化	1,040,392
23	人文・社会	阿部　優子	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻	博士後期課程 4 年	現代カイロの街区意識の人類学的研究：日常生活にみる動的紐帯の形成	1,030,000

別表（1）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
24	人文・社会	Bas Ahmet Melik	千葉大学大学院人文公共学府人文公共学専門	博士後期課程 4 年	日本の離島における絶滅危惧種の保護―西表島、奄美大島、佐渡島の事例から見た文化人類学的視点	500,000
25	人文・社会	李　悦	東北大学大学院法学研究科法政理論専攻	博士後期課程 3 年	20 世紀のポルトガル海洋帝国の支配構造の研究－大統領によるアフリカ植民地訪問事業に着目して	846,376
26	人文・社会	渡辺　友美	早稲田大学大学院文学研究科表象・メディア論コース	博士後期課程 2 年	20 世紀初頭の米国におけるセーラー服の流行とその表象	850,000
27	人文・社会	出水　友理亜	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻発達臨床心理学領域	博士後期課程 4 年	自閉スペクトラム症と性別違和を併存するダブルマイノリティのメンタルヘルス向上に向けた支援策の開発	1,000,000
28	人文・社会	草薙　志帆	東京都立大学大学院人文科学研究科文化基礎論専攻	博士後期課程 5 年	高度成長期における政治改革論議の歴史学的研究 ―選挙制度改革と農村地盤の動揺―	600,000
29	人文・社会	廖　凱	東京海洋大学海洋政策文化学部門	助教	漁協における観光事業の取り組みと課題	700,000
30	人文・社会	小島　千佳	明治大学大学院地理学専攻	博士後期課程 4 年	ジェントリフィケーションによる居住格差の拡大と借家人運動の展開：ドイツ・ベルリンを事例として	980,813
31	数物・工学	竹森　颯真	東京科学大学大学院理学院物理学　物理学コース	博士後期課程 1 年	強相関効果と散逸の協奏が誘起する超伝導と非平衡ダイナミクスの探索	720,000
32	数物・工学	戸簾　隼人	滋賀大学大学院データサイエンス研究科	博士後期課程 1 年	メタバースと生成 AI を活用した包括的学習支援環境の開発と効果検証	1,000,000
33	数物・工学	嶋田　恭大	慶應義塾大学大学院総合デザイン工学専攻マルチディシプリナリ・デザイン科学専修	博士後期課程 1 年	海鳥の対気速度および対水速度計測のための、2 種類の膜を用いた水空流速センサーの開発	1,380,000
34	数物・工学	新藤　悠斗	東京農工大学大学院化学物理工学専攻	博士後期課程 1 年	フェムト秒レーザーで非金属に励起した表面プラズモンによる光触媒反応の実証	900,000
35	数物・工学	Prateepkaew JAKKRIT	京都大学大学院工学研究科原子核工学専攻	博士後期課程 3 年	加速器ベースホウ素中性子捕捉療法照射システムのための遠隔操作可能な中性子スペクトロメータの開発	1,050,000
36	数物・工学	天谷　友亮	富山大学大学院理工学研究科	修士課程 2 年	数値モデリングを用いた日本海深層循環の変動メカニズム解明と将来予測	1,181,352
37	数物・工学	Wu Heng	沖縄科学技術大学院大学海洋生態物理学ユニット	技術員	サンゴ礁における離岸流の現地観測と高精度数値モデリング	1,400,000
38	数物・工学	齋藤　駿一	東京大学大学院理学　研究科物理学専攻	博士課程 1 年	マクロ変形によるミクロ構造変化から導くエージングの解明	476,550
39	数物・工学	波島　諒	明治大学大学院理工学研究科、建築都市学専攻	博士後期課程 1 年	「クラウド型共通価値創造」による地域活性化の空間建築論と事業モデルの日米比較研究	820,000
40	数物・工学	KWON Hyukjin	東京科学大学大学院理学院物理学　物理学コース	博士後期課程 1 年	微視的状態方程式を用いた高速回転する中性子星の内部構造の理論的研究	870,000
41	数物・工学	杉山　陽平	横浜国立大学大学院理工学府数物・電子情報　理工学専攻物理工学教育分野	博士後期課程 3 年	Twin-field 量子鍵配送に向けたレーザー光源安定化技術の開発	1,500,000
42	数物・工学	橋口　廉	九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻	修士課程 2 年	6R Bricard Linkage を応用した革新的な船舶用帆の研究	1,500,000
43	数物・工学	山下　青空	佐賀大学大学院理工学研究科理工学専攻	博士後期課程 3 年	宇宙の大規模構造を用いた重力理論の検証	850,000
44	数物・工学	亀田　智明	関西学院大学大学院理工学研究科先進エネルギーナノ工学専攻	博士後期課程 2 年	ヤヌス遷移金属ダイカルコゲナイドの面外鏡面対称性の破れに起因する電子状態と応答現象に関する理論研究	1,000,000
45	数物・工学	甘中　健登	千葉大学大学院薬学研究院	助教	α線の光追跡を可能とするα線誘起発光体の創製とその応用	750,000
46	数物・工学	塩原　裕介	信州大学大学院総合医理工学研究科総合理工学専攻数理・社会システム科学分野数理情報システム科学ユニット	博士課程 2 年	ディフェオロジカル空間上のリーマン幾何学の創始と多様体間の写像空間への応用	205,727
47	数物・工学	新実　寛己	慶應義塾大学大学院理工学研究科開放環境科学専攻	博士前期課程 1 年	海洋分解性と力学物性を制御された次世代ポリエステルの創製	1,380,000
48	数物・工学	櫻井　駿一	慶應義塾大学大学院理工学研究科総合デザイン工学専攻	博士後期課程 1 年	微細マニピュレーション技術の革新による次世代医療システムの実現	900,000

別表（1）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
49	数物・工学	高野　将大	東京大学大学院理学　研究科地球惑星科学専攻	博士後期課程 2 年	地球核中の水素量制約を目指した Ni 水素化物の高温高圧中性子その場観察	1,050,000
50	数物・工学	橋本　滉太郎	東京農工大学大学院工学府機械システム工学専攻	博士後期課程 1 年	海底探査機開発に向けた高温油中水滴の爆発的沸騰現象を活用した物体の非接触駆動・制御への挑戦	895,346
51	数物・工学	福嶋　拓海	東京大学大学院理学　研究科物理学専攻	博士課程 1 年	一般化ゲージ理論におけるフラクトン励起と多重極子保存則への　統的なアプローチ法の構成	227,084
52	数物・工学	中嶋　まい	北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科ナノマテリアル・デバイス研究領域	博士後期課程 1 年	二次元材料を用いた横型 pn 接合計測に向けた STEM-EBIC 測定法の確立	900,744
53	数物・工学	Islam Md Saiful	富山大学大学院理工学研究科理工学専攻	博士後期課程 1 年	カーボンナノチューブに包摂された 1 次元カルコゲン鎖におけるパイエルス転移と鎖間相互作用	750,000
54	数物・工学	髙橋　尚也	千葉大学大学院融合理工学府基幹工学専攻医工学コース	博士後期課程 1 年	上肢・体幹に呈示された骨導超音波の知覚・伝搬メカニズムの理解に基づく新型音響デバイスの開発	900,000
55	数物・工学	岡﨑　葵生	宇都宮大学大学院地域創成科学研究科社会デザイン科学専攻建築学プログラム	博士前期課程 1 年	障害当事者にとって有効なカームダウンスペースの要求性能把握とその効果	790,000
56	数物・工学	小玉　美悠	電気通信大学大学院情報理工学研究科機械知能システム学専攻	博士前期課程 2 年	完全バッテリレスで生体計測と情報通信を実現する生体バックスキャッタ技術	900,000
57	数物・工学	萩原　幸奈	宇都宮大学大学院地域創生科学研究科工農総合科学専攻機械知能工学プログラム	博士前期課程 2 年	推進力向上につながるアーティスティックスイミングのフラットスカル動作の研究	930,000
58	数物・工学	範　鳳龍	京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻	特定研究員	オゾンカソード微生物燃料電池で水中の抗生物質と抗生物質耐性菌及び抗生物質耐性遺伝子の除去プロセス開発	1,050,000
59	数物・工学	大野　望	慶應義塾大学大学院理工学研究科総合デザイン工学専攻	博士前期課程 2 年	二軸微小フォースプレートを用いたショウジョウバエの足裏反力計測	1,050,000
60	数物・工学	澤田　涼	東京大学宇宙線研究所	特任研究員	太陽　形成を支配する短寿命放射性核種の起源について新たな可能性の提案と検証	860,000
61	化学	千田　知香	岩手大学大学院理工学研究科自然応用科学専攻	博士後期課程 3 年	層状複水酸化物を触媒前駆体として用いたカーボンナノチューブ合成に関する研究	890,000
62	化学	小嶺　敬太	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	助教	DFT を活用した中員環短工程合成法に基づく、脳損傷予防リード天然物の高効率的合成と創薬基盤研究	1,000,000
63	化学	松山　太郎	東京大学大学院薬学　研究科	特任助教	理論化学と実験化学による天然物の生合成機構解明と新規天然物の創生	900,000
64	化学	貞廣　優作	熊本大学大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター　天然薬物学分野	助教	天然資源エキスに含まれる生物活性物質を高精度で迅速に同定するデータ解析基盤の構築	750,000
65	化学	堤　大洋	日本大学文理学部化学科	助手	海洋天然物の鏡像異性体を基盤とした医薬品候補化合物の創製研究	820,000
66	化学	有川　忍	東京科学大学理学院化学	助教	電荷移動型電子スピン偏極材料の開発と二重の励起状態混合を利用した完全な初期化と光読み出しの実現	674,750
67	化学	王　煜翔	芝浦工業大学大学院地域環境システム専攻	博士後期課程 2 年	アトロプ異性 3-アリールキナゾリン-4-オン誘導体の回転安定性の解明と不斉合成および抗 MRSA 活性	890,000
68	化学	TANG ZHONGYAO	東京科学大学大学院生命理工学院生命理工学コース	博士後期課程 3 年	嵩高いケトンを不斉還元できる新規アルコール脱水素酵素の構築とフロー　反応への応用	820,000
69	化学	細野　新	東北大学多元物質科学研究所	助教	酸化物原料と金属ナトリウムを用いた金属ホウ化物の低温直接合成法の開発	690,000
70	化学	岡本　一央	富山大学学術研究部理学	助教	イナミンの電気化学的活性化による小・中員環モチーフの直接的構築	900,000
71	化学	和田　一樹	埼玉大学大学院理工学研究科理工学専攻物質科学コース	博士後期課程 1 年	反芳香族ケイ素化合物の合成とこれを活かした窒素錯体の合成	1,100,000

別表（1）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
72	化学	源河　理子	琉球大学大学院理工学研究科海洋環境学専攻	博士後期課程 3 年	α-フルオロアミノ酸の合成法開発とフッ素化ペプチドへの応用	820,000
73	化学	三宅　航成	名古屋工業大学大学院工学研究科工学専攻	博士後期課程 1 年	新規不斉触媒創製とフロー合成技術を活用する非天然アミノ酸の効率的合成法の開発	900,000
74	化学	梶原　大意	神奈川大学大学院理学研究科理学専攻化学領域	博士後期課程 1 年	水素生成能を有する分子性金属錯体/酸化グラフェン/金属酸化物複合材料による革新的固体電極触媒の創製	790,156
75	化学	矢野　圭悟	高知工科大学大学院工学研究科基盤工学専攻	博士後期課程 1 年	分子結晶における結晶内粘弾性機構の設計とマクロレオロジー計測システムの構築	1,040,000
76	化学	高橋　優希	創価大学大学院理工学研究科生命理学専攻	博士後期課程 1 年	新規二機能性レクチンの機能解明を基にした選択的ガン細胞・ウイルスの破壊	900,000
77	化学	西口　直輝	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科物質・材料化学専攻	博士後期課程 1 年	プロトン移動により特性制御が可能な新規蛍光体の開発とレシオ蛍光イメージング応用	890,000
78	化学	湯汲　紫音	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科理学専攻	博士後期課程 2 年	気相芳香族-溶媒クラスターの振動準位選択的イオン化による溶媒分子の量子性の分光学的検出	810,000
79	化学	関　将太郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科環境システム学専攻	博士後期課程 2 年	過度流量法と急速昇温マイクロリアクターを用いた高効率な反応速度評価手法の開発	690,000
80	化学	佐々木　翔生	慶應義塾大学大学院理工学研究科開放環境科学専攻環境エネルギー科学専修	博士後期課程 1 年	コアセルベート液滴・ベシクル転移を利用した自己再生産するプロトセルの創製	250,000
81	化学	伊藤　直也	岐阜薬科大学大学院薬学部薬学専攻	博士課程 3 年	メカノケミカル条件下で進行する炭酸塩の効率的メタン化	820,000
82	化学	山川　一仁	千葉工業大学大学院工学研究科応用化学専攻	博士前期課程 2 年	単純アルケンからトリアゾリウム塩への変換	820,000
83	化学	野口　真司	北海道大学大学院先端生命科学研究院	特別助教	ハイドロゲルを用いた機能性無機化合物の革新的形態制御合成法の開発	1,130,000
84	化学	栁澤　拓摩	静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府薬学専攻	博士課程 3 年	細胞内液－液相分離液滴の選択的サンプリング・マルチオミクス法の開発	880,000
85	化学	佐々　裕隆	武庫川女子大学薬学部	嘱託助手	超原子価ヨウ素触媒を用いたエナンチオ選択的 C(sp3)-N 結合形成反応の開発	740,000
86	化学	林　泰毅	東京大学大学院新領域創成科学研究科環境システム学専攻	特任助教	カゴ状無機分子と有機分子リンカーからなる複合体を構成単位としたメソ多孔体の構造制御	750,000
87	化学	安永　幸太	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋資源環境学専攻	博士前期課程 2 年	クリガニの交尾栓を構成する物質を明らかにする	1,150,000
88	化学	大山　央登	大阪大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程 1 年	拡張ポルフィリノイドの配座変化を用いた近赤外光異性化分子の提案	730,000
89	化学	須濵　明日未	山口大学大学院創成科学研究科化学　専攻	博士前期課程 2 年	生体深層部を可視化するシアニン型近赤外蛍光プローブの開発	750,000
90	化学	中川原　亜依	群馬大学大学院理工学府理工学専攻物質・生命理工学領域	博士後期課程 2 年	1 本の疎水鎖末端をフッ素化した新規リン脂質の膜タンパク質研究への展開	610,000
91	化学	高田　悠里	大阪大学産業科学研究所	助教	ペプチド化合物の効率的修飾による分解誘導薬の創製	1,000,000
92	化学	小林　加奈	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科理学専攻	博士課程 2 年	14 族二価化学種の p 軌道を活用した新奇芳香族・反芳香族化合物の創成	440,000
93	化学	鈴木　洸希	東京農工大学大学院工学府応用化学専攻	博士後期課程 1 年	Holdase 模倣分子の開発による長鎖タンパク質の段階的フォールディング手法の確立	820,000
94	化学	西村　優輝	関西学院大学大学院理工学研究科化学専攻	博士後期課程 1 年	マイクロフロー合成で切り拓く、オリゴピリンの効率的自在合成	750,000
95	化学	阿久津　周平	東北大学大学院薬学研究科	修士課程 2 年	触媒的空気酸化的ペプチド合成法の開発	820,000
96	化学	植木　穂香	奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科先端科学技術研究専攻物質創成科学領域	博士後期課程 1 年	単層遷移金属ダイカルコゲナイド試料を用いたポラリトンデバイスの開発	820,000
97	化学	坪井　春樹	高知大学大学院総合人間自然科学研究科応用自然科学専攻	博士後期課程 1 年	「安価で，誰でも，短時間で分析可能」な無機/有機水銀の分別定量法および小型水銀分析装置の開発	650,000

別表（1）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
98	化学	漆舘　圭吾	室蘭工業大学大学院工学専攻先端環境創生工学コース	博士後期課程 1 年	重水素化による PEG 化没食子酸エステル水溶液の相分離メカニズムの解明	750,000
99	化学	磯辺　茉実	京都大学高等研究院	特定研究員	光屈曲性デンドライト結晶の分子性ガラスコーティングによる膜状光アクチュエータの開発および機械特性評価	820,000
100	化学	稲田　智理	信州大学大学院総合理工学研究科繊維学専攻	修士課程 2 年	両親媒性ランダムコポリマーからなる人工膜タンパク質の創製とその分子変換・透過能による細胞機能制御	820,000
101	生物	劉　嘉瑩	自治医科大学大学院医学研究科	博士課程 3 年	蛍光分子を用いた二ヵ所構造変化同時検出によるイオンチャネルゲーティング機構の解明	970,000
102	生物	徳丸　碧海	熊本大学大学院薬学教育部医療薬学専攻	博士課程 4 年	脂質代謝に着目した新規慢性腎臓病進展メカニズムの解明と治療戦略の開発	970,000
103	生物	戸室　幸太郎	東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻	博士後期課程 2 年	ゴルジ体を舞台とする新規局所翻訳メカニズムの解明	1,050,000
104	生物	清水　佑馬	大阪公立大学大学院理学研究科生物学専攻	博士後期課程 1 年	光による p-クマル酸の蓄積を介したエンドウ上胚軸の表皮・内部組織間の接着力増加機構の解明	940,000
105	生物	野宮　廣貴	福井大学学術研究院医学　部門医学領域生命情報医科学講座分子生体情報学分野	特別研究員	タンパク質凝集における細胞環境の影響：異なる細胞種での凝集メカニズムの比較解析	870,000
106	生物	向江　凪	名古屋市立大学大学院薬学研究科創薬生命科学専攻	博士後期課程 1 年	小胞体―リソソーム間膜接触部位における新規細胞内カルシウム調節機構	820,000
107	生物	片山　蒼	琉球大学大学院理工学研究科海洋環境学専攻	博士後期課程 3 年	付着性甲殻類フジツボにおける睡眠創出機構の神経学的解明	920,000
108	生物	徐　祥源	東京農工大学大学院生物システム応用科学府共同先進健康科学専攻	博士後期課程 1 年	マウスを用いた T 細胞アナジーの新規評価方法を基盤とした T 細胞不応答化機構の解明	940,000
109	生物	吉原　昂洋	東京薬科大学大学院薬学研究科	博士課程 2 年	薬剤耐性菌を感受性化する新規ざ瘡治療薬の開発	820,000
110	生物	佐藤　楓果	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻	博士前期課程 2 年	認知機能障害は血液由来血清アミロイド P 成分の脳内移行による神経細胞死誘導が原因か？	1,110,000
111	生物	大谷　真彦	明治大学研究・知財戦略機構	研究推進員	植物の MKK3 を中心としたリン酸化カスケードにおける分子複合体モデルの検証	820,000
112	生物	井上　裕生希	佐賀大学大学院農学研究科生物資源科学専攻	修士課程 2 年	活性酸素に着目したウイルス感染に対する珪藻の生理応答機構の解明	830,000
113	生物	Pou Sola Nuria	横浜国立大学大学院環境情報研究院	博士課程 2 年	春の珪藻ブルームに及ぼす寄生性菌類の影響解明	1,370,000
114	生物	安藤　紗奈	山口大学大学院共同獣医学研究科獣医学専攻	博士後期課程 3 年	海産毒オカダ酸の新たな作用機序の解明と PME-1/PP2A 軸に作用する新規海産化合物の同定	920,000
115	生物	湯浅　壱	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋生命資源科学専攻	博士前期課程 2 年	微小液滴を用いたクルマエビ類病原性 Vibrio harveyi に対する新規拮抗細菌の高速単離法の開発	1,060,000
116	生物	倉澤　岳志	東北大学大学院医学　研究科医科学専攻	博士課程 2 年	転写制御-代謝変化-フェロトーシスの連動による B 細胞免疫恒常性維持機構の解明	967,228
117	生物	大嶋　詩響	金沢大学大学院自然科学研究科生命理工学専攻	博士前期課程 2 年	独自に開発した画像解析手法を用いたアオゴカイにおけるインドール-3-酢酸による行動制御機構の解析	1,340,000
118	生物	大山　克明	立命館大学総合科学技術研究機構	研究教員（助教）	シアノバクテリア時計タンパク質に内包されているリン酸化周期を規定する分子メカニズムの解明	900,000
119	生物	片山　ともか	近畿大学大学院農学研究科バイオサイエンス専攻	博士後期課程 2 年	培養肉生産を目指した筋肉細胞の高次培養技術の開発	970,000
120	生物	山内　智暁	九州大学大学院薬学研究院	助教	体内時計の乱れから見出された新規の血中がん抑制因子の機能解析	1,120,000
121	生物	Tran Thuy Linh	理化学研究所生命機能科学研究センター構成的細胞生物学研究チーム	ポストドクター	ヘイムダル古細菌チューブリンの構造機能解析から迫る真核生物微小管の誕生起源	970,000

別表（1）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
122	生物	高野　友篤	京都大学大学院医学研究科医学専攻	博士後期課程 5 年	生殖細胞を介した次世代におけるゲノム変異の制御機構の解析	937,354
123	生物	森田　瑞生	近畿大学大学院生物理工学研究科生物工学専攻	博士後期課程 2 年	ゼニゴケの精子走化性におけるカルシウムイオンを介した 2 本鞭毛の制御機構の解析	1,040,000
124	生物	田嶋　宏隆	京都大学大学院情報学研究科情報学専攻	博士後期課程 2 年	水晶体の炭素・窒素安定同位体比を用いたアオウミガメの採餌場変化の推定	1,180,000
125	生物	中島　梨夏	関西学院大学大学院理工学研究科生命医化学専攻	博士後期課程 2 年	転写のコアクチベーターDDX5 が、転写因子 E2F1 によるがん化抑制作用に及ぼす影響	740,000
126	生物	中道　和也	早稲田大学大学院先進理工学研究科生命医科学専攻	博士後期課程 3 年	画期的アルゴリズムによる地球上のトランスポゾンの網羅探索	1,050,000
127	生物	新家　一樹	同志社大学大学院生命医科学研究科医工学・医情報学専攻	博士後期課程 4 年	微小管結合タンパク質 MAP2 の機能消失がもたらす『めまい』のメカニズム解明	1,050,000
128	生物	植田　賢	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境科学	博士課程 1 年	代謝関連分子感受性蛍光タンパク質を用いた脳神経　の代謝調節機構の解明	970,000
129	生物	新保　秀美	琉球大学大学院理工学研究科海洋環境学専攻	博士後期課程 1 年	サンゴにおける適応白化説の検証	620,000
130	生物	金城　薫子	琉球大学大学院医学研究科分子・細胞生理学講座	博士課程 2 年	ミトコンドリア-カルシウムシグナルによるヒト多能性幹細胞の初期分化機構の発見	970,000
131	生物	桑原　康介	東北大学大学院農学研究科	特任助教	RNA プルダウンアッセイを活用した、育種に重要な稔性回復遺伝子の探索手法の確立と応用	805,750
132	生物	宮前　萌優	北里大学大学院獣医学　研究科	博士課程 2 年	遺伝子配列に基づく薬剤感受性種差評価法の構築並びにハイリスク種の特定	900,000
133	生物	南　香帆	名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻生態学講座	博士前期課程 2 年	ウミネコの認知能力が採餌行動と繁殖成績に与える影響の解明	920,000
134	生物	大賀　充陽	京都大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程 2 年	グアニン四重鎖構造の誘起による標的遺伝子の選択的抑制を目指した化合物の開発	960,000
135	生物	鈴木　洋弥	東京工科大学応用生物学部応用生物学科	助教	微量組織からの植物ホルモン分析技術を用いたトウモロコシ幼葉鞘におけるオーキシン合成点の特定	1,050,000
136	生物	津金　響子	北海道大学大学院環境科学院生物圏科学専攻	修士課程 2 年	夜間人工光による光環境変化が海洋付着生物群集に与える影響の解明	600,000
137	生物	長坂　桂吾	東京大学大学院大気海洋研究所農学生命科学研究科水圏生物科学専攻	博士前期課程 2 年	サメの卵を守る卵殻の形成メカニズムの研究	1,113,640
138	生物	植山　竜弥	高知大学大学院総合人間自然科学研究科農林海洋科学専攻	修士課程 2 年	新奇転写制御因子 RSp0599 を介した植物病原細菌 青枯病菌の病原性抑制機構の解明	970,000
139	生物	大橋　啓史	国立感染症研究所治療薬開発研究部第一室	研究員	様々なウイルス感染時に共通する ARHGAP17 依存的小胞体構造の変動とウイルス増殖のメカニズム解析	960,000
140	生物	佐光　幸叶	名古屋大学大学院医学　研究科総合保健学専攻	博士後期課程 1 年	脳卒中後の自発的運動機能回復における”REST”の役割について	941,824
141	生物	小野　菜月	九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻	修士課程 2 年	トラフグにおけるフグ毒応答性分子群のマルチオミクス解析：無毒フグ作出を目指した基盤研究	1,340,000
142	生物	田村　あずみ	国立感染症研究所治療薬開発研究部	研究員	遺伝子ノックアウトライブラリーを用いたファージ由来抗バイオフィルム因子の網羅的探索	840,000
143	生物	越水　静	国立遺伝学研究所情報研究	助教	花の構造色を発色する微細な凹凸構造の形成メカニズム解明	1,500,000
144	生物	曲　酌	九州大学大学院システム生命科学府システム生命科学専攻	一貫制博士課程 5 年	スプライス部位形成変異と進化の関連性の解明	1,110,000
145	生物	松田　哲平	愛媛大学大学院理工学研究科理工学専攻	博士後期課程 1 年	RNA 質量分析の技術基盤の構築を通じたヒト培養細胞における RNA 修飾の動的変動の解明	1,040,000
146	生物	夏山　龍伊	電気通信大学大学院情報理工学研究科基盤理工学専攻	博士前期課程 2 年	ペントースリン酸経路が高強度インターバルトレーニングによる骨格筋の運動適応に果たす役割の解明	820,000
147	生物	市川　彩夏	東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻	修士課程 2 年	モデルマウスを用いた顆粒膜細胞腫発症におけるセネッセンスの役割の解明	940,000

別表（1）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
148	生物	吉田　悠	東京大学大学院大気海洋研究所海洋生命システム研究　海洋生態　科学部門	博士後期課程 3 年	棘皮動物の体壁で共生するマイコプラズマ門細菌の遺伝情報解析	1,210,000
149	生物	大西　流偉	岡山大学大学院環境生命自然科学研究科	博士後期課程 1 年	ヒザラガイの磁鉄鉱歯形成における鉄濃縮機構の解明	600,000
150	生物	大舘　和真	東京農業大学大学院生命科学研究科バイオサイエンス専攻	博士後期課程 1 年	藍藻由来硫酸多糖シネカンの動物細胞に対する影響解析	1,097,191
151	生物	田作　勇人	北海道大学大学院農学院昆虫体　学研究室	博士前期課程 2 年	海岸性ヒメハネカクシ族の腐食性は生息環境の転換に寄与したか	840,000
152	生物	新妻　史絵	信州大学大学院総合医理工学研究科総合理工学専攻	博士課程 1 年	乳酸菌の糖代謝経路による免疫賦活効果の制御メカニズムの解明	900,000
153	生物	南　実華	大阪大学大学院医学　研究科医学専攻	博士課程 3 年	小胞体-ミトコンドリア接触部位で働く新規オートファジー制御因子のメカニズム解明	700,000
154	生物	山本　悠馬	静岡大学大学院総合科学技術研究科農学専攻応用生命科学コース	修士課程 1 年	海洋性プラシノ藻 Tetraselmis striata における光合成タンパク質の精製と特性解析	990,000
155	生物	植村　優太	名城大学大学院農学研究科農学専攻	博士課程 3 年	特定の細胞内オルガネラ状態変化によって制御される組織形成メカニズム	864,817
156	生物	穴井　陸大	東京大学大学院大気海洋研究所海洋生命システム研究　海洋生態　科学部門	博士課程 1 年	ミジンギリギリツツ科貝類の分類学的検討を通じた間隙環境における適応進化の解明	600,000
157	生物	浜口　愛勇生	崇城大学大学院工学研究科応用微生物工学専攻	博士後期課程 2 年	酵母が生産するプルケリミン酸を用いた工業排水中における金属イオン除去技術の開発	1,300,000
158	生物	橘井　瑠伽	宮城教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻教科探求(理科)	専門職学位課程 2 年	ウミコップ属のクラゲにおける配偶子放出タイミングの同調と多様性	813,951
159	生物	古原　香乃	長崎大学大学院総合生産科学研究科	博士前期課程 2 年	前移動種と横移動種のカニにおけるシェルター利用パターンの比較：横移動の適応的意義の解明	850,000
160	生物	石橋　暖	琉球大学大学院理工学研究科	博士前期課程 2 年	洞窟性コケムシ類の生態学的役割の解明に向けて：底生生物調査の新手法を用いた琉球列島海底洞窟の探索	920,000
161	生物	大林　茉由奈	岐阜薬科大学大学院薬学研究科	博士課程 1 年	海洋微細藻類由来活性成分の細胞小器官に対する作用に関する研究	820,000
162	生物	古谷　優治	岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科	博士後期課程 1 年	新生鎖 mRNA のスプライシング制御に着目した核内ストレス顆粒の分子機能が及ぼす恒常性維持機構の解明	1,120,000
163	生物	小林　龍太郎	大阪公立大学大学院理学研究科生物学専攻	博士前期課程 2 年	雄が卵保護するサキンハゼにおける卵捕食者の視点取得と卵隠蔽行動の機能解明	840,000
164	生物	熊谷　尭敏	九州大学大学院生物資源環境科学府生命機能科学専攻生物機能分子化学教育コース海洋資源化学分野	修士課程 1 年	独自に構築した海洋微生物-脂質ライブラリーを用いた革新的な脂質解析技術の開発と応用	953,373
165	生物	岡部　菜々子	沖縄科学技術大学院大学大進化ユニット	博士後期課程 1 年	初期の脊椎動物である古代魚 Heterostracan の生態の解明による顎のない魚の衰退原因の検討	1,400,000
166	生物	Chainarin Sittinont	長崎大学熱帯医学研究所原虫学分野	博士後期課程 1 年	マラリア原虫のタンパク質・PTRAMP の運動性と赤血球侵入における役割の解明	970,000
167	生物	外園　清香	横浜市立大学大学院生命医科学研究科生命医科学専攻	博士前期課程 2 年	ヒストン H3K27 クロトニル化修飾を起因とした大腸がん細胞増殖機構の解明	1,050,000
168	生物	米田　一路	山梨大学大学院総合研究部工学域土木環境工学	助教	水環境中で長期間生存できる特異な大腸菌の探索とその菌株が保有する特徴的な遺伝子の解明	970,000
169	生物	中澤　秀道	埼玉大学大学院理工学研究科理工学専攻	博士後期課程 2 年	脊椎動物の後肢起源：「腹鰭」誕生に寄与した hox 遺伝子群の発生遺伝学的解析	890,000
170	生物	中山　晃輔	名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻	博士後期課程 1 年	哺乳類の二次的水棲適応における関節面形態の変化：幾何的・力学的視点からの形態解析	779,357
171	生物	田中　友啓	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	修士課程 2 年	難培養性外生菌根菌の新たな分離・培養方法の探索	568,146

別表（1）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
172	生物	武川　祐一郎	北海道大学大学院生命科学院生命科学専攻生命融合科学コース	博士前期課程 2 年	狂犬病ウイルスが免疫逃避のために STAT ホモ・ヘテロ二量体を識別し、選択的に阻害する分子機構の解明	900,000
173	生物	田村　幹太	東京大学大学院理学　研究科生物科学専攻	修士課程 1 年	キク科Curio属植物を用いた単面葉可能性の探索とその進化プロセスの解明	960,000
174	生物	花﨑　可奈	静岡大学大学院総合科学技術研究科農学専攻応用生命科学コース	修士課程 2 年	ナツメボヤ科ホヤ卵の特有現象である「受精前卵黄膜上昇」の原理解析	1,198,518
175	生物	木下　舞香	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻	博士前期課程 1 年	塩ストレス栽培実験と遺伝子発現解析・成分分析から明らかにする海浜環境適応メカニズムの解明	1,500,000
176	生物	宗像　祥久	福島県立医科大学	助教	マウス卵子形成を司るクロマチン構造制御メカニズムの解明	650,000
177	生物	穴澤　茉由子	東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産科学専攻	博士後期課程 2 年	ウシおよびヒトにおける卵丘細胞の分子生物学的解析による卵子発生能獲得機序の解明	750,000
178	生物	森野　健児	九州大学大学院医学　学府医学専攻	博士後期課程 3 年	出産タイミングを決める新しい子宮内免疫細胞の究明	1,120,000
179	生物	Musa　Nasiru Musa	奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科先端科学技術専攻	博士後期課程 1 年	巨大 Microproessor 複合体による細胞種特異的なマイクロ発現制御機構の解明	1,050,000
180	生物	YAN Xiaochan	日本大学生物資源科学部	研究員	霊長類の体色多様化に関わる分子機構の解明	1,040,000
181	生物	鎌田　優香	関西学院大学生命環境学部生命医科学科	助教	疾患関連　ABC トランスポーター ABCB4/ABCB11 の分解メカニズム解明	970,000
182	生物	田村　百花	甲南大学大学院自然科学研究科生物学専攻	博士前期課程 2 年	強力な脱凝集能力をもつシャペロン ClpB を基盤とした新たな選択的タンパク質分解システムの構築と利用	810,000
183	生物	INZALI HNIN	東京海洋大学大学院海洋生命科学部海洋生物資源部学科	博士課程 1 年	日本とミャンマーのボラにおけるマイクロプラスチック摂取の地域的および発達的変動	450,000
184	生物	池田　ひなた	高知大学大学院総合人間自然科学研究科	修士課程 2 年	ウミガメの初期生活史における概日的生理・行動特性発現の有無－適切な孵卵温度条件の提案を目指して－	830,000
185	生物	白水　開	熊本大学大学院医学教育部医学専攻	博士後期課程 2 年	非哺乳類無核赤血球から解き明かす赤血球脱核の進化的意義	1,120,000
186	生物	岩附　利英	東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻	修士課程 1 年	海産白点虫 Cryptocaryon irritans の宿主免疫回避機構の解明	1,040,000
187	生物	小田桐　光李	北海道大学大学院水産科学研究院海洋生物資源科学専攻資源生物学講座	博士後期課程 1 年	繁殖地沿岸の海洋生態　における物資輸送者としての海鳥の役割解明	499,860
188	生物	佐藤　優成	海洋研究開発機構超先鋭研究開発部門	博士研究員	バイオナノマシン集団によって自律的に分裂・増殖を行う新たな人工細胞の創生	1,120,000
189	生物	佐藤　智水	鹿児島大学大学院連合農学研究科農水生命科学専攻	博士後期課程 1 年	日本産コバンハゼ属魚類の分類学的研究とそれぞれの種が宿主として利用する造礁サンゴの特性解明	990,000
190	生物	児美川　拓実	東京科学大学大学院物質理工学院応用化学	博士後期課程 2 年	固体支持膜を利用した小胞体由来の曲率認識タンパク質の探索	1,040,000
191	生物	大戸　夢木	愛媛大学大学院理工学研究科理工学専攻生物環境科学講座	准教授	汽水域の利用可能性が回遊行動の変化を介してハゼ科魚類の繁殖に与える影響	1,487,328
192	生物	小川　萌日香	国立極地研究所北極観測センター	特任助教	イッカクの体色を用いた非侵襲的年齢査定方法の開発：保全と利用の両立を目指して	1,137,475
193	生物	山内　涼	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	博士前期課程 2 年	孔辺細胞葉緑体の光合成機能とその生理的役割の探求	1,000,000
194	生物	森　香穂	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	博士後期課程 2 年	超高解像度メタトランスクリプトーム解析で解き明かす新しい海洋微生物生態像	650,261
195	生物	鶴田　悠介	東京都立大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程 2 年	環境ストレスの変化に応答した減数分裂期組換え部位の変動機構の解明	970,000
196	生物	松重　一輝	長崎大学環境科学部	助教	都市河川を遡上するニホンウナギの生態：小規模堰堤と夜間の人工光による複合的作用の検証	750,000
197	生物	髙根　有斗	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	修士課程 1 年	双翅目アミカ科の日本列島における種多様性と幼虫形態の進化経路の解明	528,173

別表（1）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
198	生物	立川　琢真	千葉大学大学院融合理工学府先進理化学専攻生物学コース	博士前期課程１年	昆虫都市の機能解析：巣の構造は繁殖分業の発現を補助しているのか？	585,217
199	生物	中山　聡	富山大学大学院理工学研究科地球生命環境科学プログラム	博士前期課程１年	国内唯一の子育てをする両生類、アイフィンガーガエルの子育て行動の生態学的研究	1,110,000
200	生物	木村　登陸	大阪公立大学大学院農学研究科緑地環境科学専攻	博士前期課程２年	大阪府内の照葉樹が優占する社寺林における樹林の発達程度と種多様性からみた自然性評価	560,000
201	生物	角　うらん	神戸大学大学院農学研究科生命機能科学専攻	博士前期課程１年	ゾウムシ類の被食防衛機能の解明：捕食者接触後にマスカレードは機能するのか？	1,120,000
202	生物	青柳　祐輝	兵庫県立大学大学院環境人間学研究科共生博物部門	博士前期課程１年	統地理学を応用したバッタ目カマドウマ科ウスリーカマドウマ属の種分化と洞窟の関係解明	870,000
203	生物	白戸　梓美	東京農工大学大学院農学府農学専攻	修士課程２年	植物根からの土壌病原細菌誘引物質の分泌が植物自身の低酸素ストレス応答となる新たな機構の解明	600,000
204	生物	牛来　麗奈	東京農業大学大学院地域環境科学研究科林学専攻	博士前期課程２年	ヒグマ(Ursus arctos)による採食イベント毎の広葉樹液果類の種子散布距離の算出とその変化	790,000
205	生物	榊原　正宗	兵庫県立大学大学院環境人間学研究科環境人間学専攻共生博物部門	博士前期課程２年	ゴマシジミ北海道亜種の北海道東部防風林における生息地管理方法の究明-景観遺伝学的アプローチから-	960,000
206	生物	田村　大也	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	助教	サバンナを渡るゴリラ：初期人類のモザイク環境適応の新たな進化モデルの構築	1,040,000
207	生物	平野　羽留	福井県立大学大学院生物資源学研究科生物資源学専攻	博士後期課程２年	田植をせず直接水田に種もみを播いて栽培できる省力化イネ品種の開発	899,989
208	生物	坂下　美咲	東京理科大学創域理工学部生命生物科学科	助教	哺乳類の生活様式によって異なる力学的負荷に基づく椎骨の形態形成メカニズムの理解	903,432
209	生物	目戸　綾乃	北海道大学大学院地球環境科学研究院	助教	陸上-河川生態　間における長鎖多価不飽和脂肪酸の季節的な相補機構の解明	1,500,000
210	生物	山口　耕平	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	博士後期課程１年	地球史上最大の陸生動物・竜脚類の歩き方と生態の進化を探る	970,000
211	生物	司　悠真	京都大学生命科学研究科統合生命科学専攻	研究員	ショウジョウバエ属 10 種の種間比較により乾燥適応戦略が調節される仕組みとその進化過程を解明する	870,000
212	生物	中西　健介	広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻	博士前期課程２年	樹上性カエルの手足の指に特異的な骨格要素に注目したカエルの樹上性の起源の解明	886,324
213	生物	佐藤　創太	東北大学大学院生命科学研究科生態発生適応科学専攻植物進化多様性分野	博士前期課程２年	微生物叢が宿主の環境適応を促進する？：異なる土壌環境に進出したツツジ科スノキ属植物を例に	1,050,000
214	生物	板倉　拓人	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	博士後期課程２年	装飾による外部形態の改変がもたらす動物種の生息域の拡大	630,000
215	生物	森川　晏吾	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻、動物行動学教室	修士課程２年	ヘビ類におけるヒキガエル毒に対する耐性とそのメカニズムの解明	960,000
216	生物	高田　喜光	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	博士後期課程１年	ハゼ科ヨシノボリ属における多種間大規模交雑の生態的原因の解明	710,000
217	生物	伊與田　翔太	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	博士課程２年	外温動物の温度形質の進化は種間競争によって駆動されるか？ ～沖縄諸島のトカゲ属を用いた検証～	1,000,000
218	生物	飯嶋　佑太	東京農業大学大学院農学研究科生物資源開発学専攻	博士前期課程２年	高解像度分子　統解析および形質評価によるサトイモの進化解明とコアコレクション作成	900,000
219	生物	大津　樹	静岡大学大学院自然科学　教育部バイオサイエンス専攻	博士後期課程３年	クワガタムシ科で見出された新規性決定制御機構の解明	600,000
220	生物	榛沢　日菜子	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻	博士課程１年	夜行性のフクロウ類リュウキュウコノハズクの羽色と複雑な模様の隠蔽機能の解明	900,000
221	生物	山﨑　曜	国立遺伝学研究所ゲノム・進化研究	助教	変態期のホルモン発現パターン変化による適応機構：ヨシノボリ属の淡水進出を用いた解明	970,000
222	生物	加藤木　高広	東海大学総合農学研究所	特定助教	食虫植物であるモウセンゴケ属の環境ストレスに対する機能性代謝産物の生成経路の解明	407,226
223	生物	福村　薫	東京大学大学院理学　研究科生物科学専攻	博士課程１年	ネジバナ単一受精のメカニズムと進化過程の解明	890,000

別表（1）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
224	生物	成田　紗由美	筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群	博士前期課程 1 年	統分類学的なアプローチによる両生類の卵に共生する緑藻の共生様式の解明	730,000
225	生物	武　彩海	筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物学学位プログラム	博士前期課程 2 年	“新生”西之島で最初に発見された藻類の特性：一次遷移における微細藻類の役割の解明	812,222
226	生物	高階　眞丈	横浜国立大学大学院環境情報学府自然環境専攻	博士前期課程 2 年	雪を色づける氷雪藻の群集構造の決定要因：色の違いは何の違い？	1,110,000
227	生物	岡村　悠太郎	名城大学大学院農学研究科農学専攻	博士前期課程 2 年	エコロジカルトラップからスズメを守る～巣立ち率の悪い営巣環境とその条件に関する調査～	750,000
228	生物	芝　里万杜	京都大学大学院農学研究科森林科学専攻森林生態学研究室	博士後期課程 2 年	石灰岩生態　の超富栄養環境における樹木の生活史戦略	530,000
229	生物	下田　真緒	筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群地球科学学位プログラム	博士前期課程 2 年	ナウマンゾウにおける四肢形態の解明：島環境によってどのような形態変化が起きたか	220,000
230	生物	佐藤　初海	東洋大学大学院生命科学研究科生命科学専攻	博士後期課程 1 年	鳥類の尾羽の機能を探る：尾羽の硬さを決定づける生態学的要因はなにか？	350,640
231	生物	諏訪　竜之介	信州大学大学院総合理工学研究科	修士課程 2 年	樹木根と菌根菌の共生から探る山岳高山域の栄養獲得戦略の解明	970,000
232	生物	仁平　岳登	三重大学大学院生物資源学研究科資源循環学専攻	博士後期課程 1 年	鳥のフンに擬態するイモムシの捕食回避効果を野外で検証する	820,000
233	生物	平井　鈴音菜	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	修士課程 2 年	イネ科メヒシバ属植物を対象とした種認識の抜本的見直しと種多様性の解明	1,120,000
234	生物	小林　沙月	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻生命科学コース	博士前期課程 1 年	日本の希少植物ツキヌキソウ属 2 種についての先進的遺伝解析を取り入れた保全生態学的研究	790,000
235	生物	小川　りさ	山形大学大学院理工学研究科地球共生圏科学専攻	博士後期課程 1 年	長寿命・一斉開花性を持つササがなぜ頻繁に小面積開花するのか？―その潜在的重要性と生態的意義の探索	700,000
236	生物	井上　修吾	九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻	博士後期課程 1 年	腐植食性ゾウムシ類の食性多様化において体内共生酵母が果たした役割の解明	740,000
237	生物	梅原　響々花	総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻基礎生物学コース	博士前期課程 2 年	アサガオを用いた葉緑体分化と斑入り形成の分子機構の解明	1,000,000
238	生物	坂根　広大	福井県立大学大学院生物資源学研究科生物資源学専攻	博士後期課程 2 年	吻部領域の神経血管　を手がかりに鳥盤類恐竜のクチバシ形態を復元する	1,040,000
239	生物	山本　裕大	三重大学大学院生物資源学研究科資源循環学専攻	博士前期課程 2 年	形態学的特徴と遺伝子情報から日本産タケ類絶対寄生菌の種多様性を解明する	950,000
240	生物	横山　大輝	岩手大学大学院連合農学研究科地域環境創生学専攻	博士後期課程 2 年	木部及び樹皮の解剖学的特性にもとづく多雪地樹木の雪圧耐性獲得メカニズムの解明	1,020,000
241	生物	橋本　賢直	九州大学大学院地球社会統合科学府包括的生物環境科学コース	修士課程 2 年	共食いがさらなる種分化をもたらすのか？ムシヒキアブの交尾前行動から検証する捕食性昆虫の多様化プロセス	506,800
242	生物	Changsalak Punnat	千葉大学大学院融合理工学府先進理化学専攻	博士課程 3 年	植物関連菌類の機能的多様性：eDNA メタバーコーディングを用いた 30 年間 の展望	550,000
243	複合	谷藤　遥平	慶應義塾大学大学院理工学研究科総合デザイン工学専攻	博士後期課程 1 年	CRISPR/Cas による「感度の高さ」と「簡便さ」を両立する核酸検出紙基板分析デバイスの開発	1,000,000
244	複合	加藤　翔平	東京農工大学大学院農学府農学専攻自然環境コース物質循環環境科学プログラム	修士課程 1 年	慶良間諸島座間味島における植物を用いた海洋プラスチックごみ由来の微量元素汚染の評価	1,300,000
245	複合	齋藤　虹南	名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻	博士後期課程 1 年	天然溶岩と模擬実験から探る溶岩ドーム崩落型火砕流における溶岩の破砕	1,200,000
246	複合	山添　絵理子	岐阜薬科大学製剤学研究室	助教	電界紡糸ナノファイバーを基盤とするバイオ医薬品の経口製剤プラットフォーム技術の開発	800,000
247	複合	天木　優希	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋資源環境学専攻	博士前期課程 1 年	駿河湾におけるサクラエビ Lucensosergia lucens の空間分布と海中照度の関連	310,197

別表（1）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
248	複合	舟山　翔大	宇都宮大学大学院地域創生科学研究科工農総合科学専攻機械知能工学プログラム	博士前期課程 2 年	投球による筋疲労時の肩外旋時における関節軟骨接触面の変化	600,000
249	複合	竹内　悠	神奈川工科大学健康医療科学部管理栄養学科	助手	ビタミン E 同族体摂取と運動負荷による脂肪組織の熱産生作用の改善と増強	800,000
250	複合	伊藤　ひなた	名古屋市立大学大学院理学研究科	博士前期課程 2 年	運動が骨格筋の SQSTM1/p62 のリン酸化を誘導する分子メカニズムの解明	800,000
251	複合	堀内　菜々子	東京大学大学院農学生命科学研究科	博士後期課程 2 年	菌類由来新規免疫賦活化分子の同定及び作用機序解析	1,000,000
252	複合	山本　遥香	徳島大学大学院医歯薬学研究部薬物動態制御学分野	博士課程 1 年	タンパク質中のエピトープ配列以外のペプチド配列が持つ免疫活性化機能	1,000,000
253	複合	根上　颯太	北里大学大学院感染制御科学府感染制御科学専攻	博士後期課程 1 年	合成致死の原理に基づくゲノム表現型スクリーニングプラットフォームの構築	753,363
254	複合	下平　剛司	総合研究大学院大学統合進化科学コース	博士後期課程 2 年	「教示」が人間の進化や社会形成に影響を与えたメカニズムの解明	500,000
255	複合	竹野　圭祐	京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻里海生態保全学	博士前期課程 2 年	造巣性甲殻類の巣穴を介した換水量の定量評価～巣穴が持つ潜在能力の解明に向けて～	700,000
256	複合	Hur Junho	東京大学大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻	修士課程 2 年	Transformer を基盤とする新しい AI 技術の惑星探査データへの応用	800,000
257	複合	小久江　智耶	神奈川県立保健福祉大学大学院保健福祉学研究科保健福祉学専攻	博士後期課程 2 年	大脳ネットワークの強化により運動学習能力を向上させる新たなリハビリテーション手法の開発	800,000
258	複合	廣瀬　夏実	東京大学大学院医学　研究科健康科学看護学専攻老年看護学/創傷看護学分野	修士課程 2 年	超音波検査による尿道カテーテル閉塞の実態解明と閉塞物分析に基づく新規閉塞予防法の提案	1,200,000
259	複合	野木　康陽	埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科	博士後期課程 2 年	動制御能向上メカニズム解明から紐解く遠心性収縮トレーニングの新たな可能性	1,100,000
260	複合	小曽根　海知	新潟医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科	助教	運動負荷の変調が腱骨付着部に及ぼす影響の解明－性差及び骨代謝に着目して－	1,000,000
261	複合	Hnin Saw Yu Yu	富山大学大学院和漢医薬学総合研究所天然物化学ユニット	博士後期課程 3 年	アマリリスアルカロイドの骨格多様性に関わる 3 種の P450 酵素の機能解析と機能改変	800,000
262	複合	保積　和奏	京都大学大学院農学研究科森林科学専攻	博士前期課程 2 年	林業分野における障害者雇用の成立・継続の要因の解明 ―「林福連携」の普及に向けて―	392,101
263	複合	吉岡　隼人	東京農業大学大学院地域環境科学研究科林学専攻	博士前期課程 2 年	広葉樹実生は外生菌根菌との共生により成長促進されるか-菌根菌種の酵素活性と栄養獲得能力との関係-	1,000,000
264	複合	水野　愛理	金沢大学大学院自然科学研究科地球社会基盤学専攻	博士前期課程 2 年	リミカリス体内における金属元素分布と化学反応：生体組織および消化管内鉱物の元素・鉱物分布に着目して	1,060,000
265	複合	CRADDOCK MAXWELL	東京科学大学大学院理学院地球惑星科学　地球生命コース	博士後期課程 2 年	火星の大気生成と古代水環境における有機物の輸送・保持 - ExoMars への示唆	976,940
266	複合	橋本　海瑠	筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群地球科学学位プログラム地球進化科学領域	博士後期課程 2 年	シロスソカケガイ類（軟体動物）の分類学的再検討と反熱帯分布の成因の解明	639,905
267	複合	宮島　拓海	富山大学大学院医薬理工学環認知情動脳科学プログラム	博士課程 2 年	音の臨場感を作り出す聴触覚統合の符号化メカニズム解明	1,100,000
268	複合	翫　美里	帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻環境生態学コース	博士前期課程 1 年	携帯型分光計測と深層学習を活用した牧草・土壌のオンサイト診断技術の開発	1,000,000
269	複合	稲葉　健	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻	博士後期課程 1 年	トレーニング効果を打ち消さない異なる強度の運動の併用によるトレーニング実施方法の確立	1,100,000
270	複合	石川　明良	日本体育大学	一般研究員	月経周期が運動後の代償反応としてのエネルギー摂取量、食欲および自発的身体活動に与える影響の検討	800,000
271	複合	馬塲　康太朗	群馬大学大学院理工学府理工学専攻物質・生命理工学領域	博士後期課程 1 年	脂質-オレオシン非対称膜小胞内膜上における外部刺激応答型の多酵素複合体形成機構の構築	1,200,000

別表（1）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
272	複合	皆木　香渚子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科東南アジア地域研究専攻	一貫制博士課程 5 年	デルタ沿岸部の塩類集積地域に根差した土壌改良方法の構築―ベトナムを事例に	1,130,000
273	複合	田中　拓哉	東京科学大学大学院物質理工学院応用化学	博士後期課程 3 年	細胞脂質の時空間的な形態変化と機能・相互作用解明のための分子設計によるイメージング技術の開発	1,170,000
274	複合	酒井　雄飛	京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻地球資源システム分野研究室	博士後期課程 2 年	深海底の大深度掘削で取得した実データと試料による超低速拡大海嶺の地温勾配異常の原因の解明	1,320,000
275	複合	七山　慧奈	愛媛大学大学院農学研究科生物環境学専攻	修士課程 2 年	日本沿岸の底質柱状試料を用いた臭素　難燃剤及び有機リン　難燃剤の時　列汚染トレンド解析	1,500,000
276	複合	江島　圭祐	山口大学創成科学研究科地球科学分野	テニュア・トラック助教	データ駆動型解析によるレアメタル濃集機構の解明：深成岩体の成長と物質循環からのアプローチ	1,000,000
277	複合	杉山　博崇	新潟大学大学院環境科学専攻フィールド科学プログラム	博士後期課程 3 年	複数年の岩石温度データを用いた，多雪地域の高山帯における削剥過程の解明	500,000
278	複合	馬場　愛里	滋賀県立大学大学院環境科学研究科環境動態学専攻	博士前期課程 2 年	果樹剪定枝精油の生理活性機能および活性成分分析による新たな利用技術の開発	800,000
279	複合	山元　颯斗	筑波技術大学大学院技術科学研究科産業技術学専攻	修士課程 2 年	ろう・難聴者の正確な歌唱リズム獲得を支援するシステムのための撥音・促音の時刻情報に関する分析	1,000,000
280	複合	西川　凜	北海道大学大学院水産科学院海洋生物資源科学専攻水産工学講座	修士課程 2 年	画像認識技術による魚群行動の自動計測:サクラマスの飼育密度による群れ行動への影響把握	760,000
281	複合	岡下　海翔	北海道大学大学院水産科学院海洋生物資源科学専攻	修士課程 2 年	養殖魚が陸上養殖水槽内の流場に及ぼす影響のシミュレーション	537,008
282	複合	村田　光紀	鹿児島大学大学院理工学研究科総合理工学専攻	博士後期課程 2 年	糖鎖機能性組換えタンパクワクチンの構築とウイルス感染症・がん治療への展開	800,000
283	複合	植田　知幸	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻	博士課程 1 年	「島弧-森林型珪化」の堆積相解析による珪化生物群の岩石圏移行プロセスの解明	1,200,000
284	複合	青田　伊莉安	慶應義塾大学 KGRI 未来共生デザインセンター	共同研究員	齧歯類の「社会生活」で生じるストレスに関する社会生態学的研究	1,000,000
285	複合	山下　敦也	宮崎大学教育学部	非常勤職員	骨格筋を増加させる食事戦略の確立	556,531
286	複合	松田　萌愛	山口大学大学院創成科学研究科自然科学　専攻	博士後期課程 1 年	認知処理と運動制御における空間表現の獲得プロセスの検討	1,200,000
287	複合	内山　瑛美子	東京大学大学院工学　研究科機械工学専攻	助教	婦人科経腟検査の実現に向けた自由エネルギー原理に基づくロボット制御手法の開発	1,000,000
288	複合	竹下　優花	創価大学大学院理工学研究科環境共生工学専攻	博士前期課程 2 年	温室効果ガス抑制、炭素貯留および植物肥料効果を持つ複合型バイオ炭ペレットの持続可能な農業手法の確立	1,000,000
289	複合	島田　佳季	電気通信大学大学院情報理工学研究科機械知能システム学専攻	博士後期課程 1 年	微小人工流路を用いた海洋生物共生メカニズムの研究	1,300,000
290	複合	Theuri　Nyaruai Virginia	京都大学大学院総合生存学館	一貫性博士課程 3 年	COVID-19 パンデミックにおける非薬物的介入が女性のメンタルヘルスに与える影響	400,000
						257,963,727

別表（2）2025 年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（実践研究）

（単位：円）

No.	助成者名	対象領域	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
1	田村　将理	実践	途草会	代表	「プレイ・デザート」を可視化する：園庭のない保育園の小公園利用の実態および制度的・設計的な課題の把握	286,422
2	宇陀　直紀	実践	大阪公立大学大学院現代システム科学研究科現代システム専攻教育学分野	博士前期課程1年	フリースクールの活動におけるミーティングの価値－自分を表現し、他者の自由を尊重する学びのあり方	220,000
3	野中　奏	実践	(福)地球の園こひつじこども園	保育教諭	こどもの探究心を育むビオトープの環境デザイン -異年齢児保育におけるカリキュラム開発-	340,000
4	山本　竜也	実践	(NPO)bootopia コーディネート事業部	副代表理事	卒業生のライフヒストリーに基づく、地域・高校とのつながりのリデザイン～島根県津和野町における実践研究	340,000
5	近藤　理美	実践	(NPO)エバーラスティング・ネイチャー小笠原海洋センター	所長	卵の移植がアオウミガメの生体磁石へもたらす影響を考慮した保全を考える	314,832
6	石山　翔午	実践	(NPO)クリーンオーシャンアンサンブル海洋ごみ事業部	調査チームリーダー	海洋ごみゼロを目指した回収技術の開発及び実践	340,000
7	山田　香織	実践	東洋大学社会学部国際社会学科	准教授	文化芸術享受のための環境充実に向けた予備的研究―住民が芸術文化経験を重ねられる地域文化拠点構築の試み	350,000
8	市川　寛也	実践	群馬大学共同教育学部美術教育講座	准教授	宮沢賢治の『農民芸術論綱要』における「誰人もみな芸術家」という言説に基づく地域芸術実践モデルの構築	340,000
9	山本　宗由	実践	長久手市生涯学習課	職員	参加者同士の交流を促す新しい音楽鑑賞プログラムの開発--音楽作品への対話型鑑賞の応用	268,910
10	小粥　隆弘	実践	浜松科学館事業企画グループ	サイエンスチームリーダー	科学館における電子顕微鏡を活用した多様な利用者へ向けた教育プログラムの開発	380,000
11	柴田　あかり	実践	福井市自然史博物館	学芸員	一般市民ボランティアと協働で行う花の模型制作による調査研究の活性化	290,000
12	小河原　孝彦	実践	糸魚川フォッサマグナミュージアム	主査・学芸員	革新的ヒスイ鑑定手法の開発と石の鑑定のバリアフリー化	250,000
						3,720,164

別表（3）2025 年度海外発表促進助成助成対象者一覧表

（単位：円）

No.	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	集会名称	発表題目	確定額
1	谷吉　和貴	京都大学大学院農学研究科農学専攻作物学研究室	助教	11th Asian Crop Science Association Conference (ACSAC11)	Photosynthetic carbon gain in lower layer of soybean canopy is increased by the improvement of photosynthetic induction or light patterning	119,000
2	顧　嘉晨	東京大学大学院 人文社会系研究科 アジア文化研究専攻	博士後期課程 4 年	The 24th International Conference of the International Society for Chinese Philosophy	Japanese Interpretation of the Phrase “Confucius wished to live among the nine tribes”: Reception of 17th Century Ming Loyalists who fled Japan	250,000
3	石田　開	湘南工科大学工学部人間環境学科	准教授	Medical Informatics Europe 2025	Response Analysis of Health Care Information Technologists in Japan using Chat Generative Pretrained Transformer	330,000
4	吉本　昂希	京都大学高等研究院物質-細胞システム統合拠点古川グループ	特定研究員	International society for stem cell research annual meeting 2025	EFFICIENT GENERATION OF VASCULAR ENDOTHELIAL CELLS DERIVED FROM HUMAN EMBRYONIC STEM CELLS	182,000
5	森田　航	国立科学博物館	研究員	2025 15th Tooth Morphogenesis & Differentiation Conference	Linkage Mapping, QTL Detection, and Identification of Candidate Genes for Shape Variation in the Four Tooth Classes of Mammals	382,000
6	鈴木　由希	奈良県立医科大学微生物感染症学講座	助教	ESCMID Global 2025	Molecular and genetic characteristics of drug resistant Enterobacterales isolated from hospital sewage in Japan	321,000
7	小松　怜史	横浜国立大学都市イノベーション研究院	准教授	fib International Symposium on Conceptual Design of Concrete Structures	Study on Collapse Evaluation Method for RC Buildings Considering Redundant Failure Behaviour	362,000
8	桑田　巧	創価大学	助教	The Protein Society Annual Symposium 2025 (PS39)	Effect of inorganic phosphate on the iron mineralization of bacterial ferritin	253,000
9	佐藤　初	京都大学大学院理学研究科	特定研究員（学振 PD）	2025 Asian Society of Ichthyologists Annual Meeting and the 12th Indo-Pacific Fish Conference	Fish teamwork on coral reefs: collaborative hunting by the false cleanerfish targeting damselfish eggs	131,758
10	宮本　裕美子	信州大学農学部先鋭領域融合研究群 山岳科学研究拠点	特任准教授	SuilluCamp	The diversity and biogeography of larch-associated Suillus in eastern Eurasia.	222,000
11	岡田　守弘	県立広島大学 生物資源科学部生命環境学科生命科学コース	准教授	8th Biennial Conference of the North American Society for Comparative Endocrinology (NASCE)	Oncogenic stress-induced Netrin is a humoral signaling molecule that reprograms systemic metabolism in Drosophila	343,000
12	濱　雄亮	東京交通短期大学	教授	2025 Joint Annual Meeting of Taiwan Society for Medical Anthropology (TSMA) and East Asian Medical Anthropology Network (EAMAN)	Medical anthropological research on the renaming of diabetes mellitus in Japan.	111,000
13	千田　哲朗	京都大学農学研究科応用生物科学専攻	博士後期課程 1 年	2025 joint Conference of Asian Society of Ichthyologists Annual Meeting and the 12th Indo-Pacific Fish Conference (ASI & IPFC)	Patterns of inter- and intra-specific genetic divergences in marine sculpins: a comparative study using genome-wide SNPs	101,000
14	新家　寛正	東北大学多元物質科学研究所	助教	The 21 st International Conference on Diffusion in Solids and Liquids (DSL2025)	Homoimmiscible Water: Unknown Water Separated from Bulk Water at Interfaces between Water and Ices Grown or Melted under Pressure	362,000
15	塩田　拓也	宮崎大学フロンティア科学総合研究センター	准教授	2025 Bacterial Cell Biology and Development Gordon Research Conference	Membrane Remodeling of the Escherichia coli Outer Membrane During the Conversion to the L-form	349,000

別表（3）2025 年度海外発表促進助成助成対象者一覧表

（単位：円）

No.	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	集会名称	発表題目	確定額
16	矢﨑　裕規	農業・食品産業技術総合研究機構　高度分析研究センター ゲノム情報大規模解析ユニット	任期付き研究員	ICOP/ISOP2025 16th International Congress of Protistology 2025	Diversity of the CRuMs Clade Expanded by Glissandra oviformis: Insights from Protists with Uncertain Phylogenetic Affiliations	100,000
17	畑　晴陵	沖縄科学技術大学院大学	スタッフサイエンティスト	2025 Joint conference of the Asian Society of Ichthhyologists Annual Meeting and the 12th Indo-Pacific Fish Conference	Taxonomic revision of species of the genus Pellona (Clupeiformes: Pristigasteridae) in Indo-Pacific	125,000
18	小林　優也	大阪公立大学大学院理学研究科生物学専攻	博士後期課程 3 年	2025 Joint Conference of the Asian Society for Ichthyologists Annual Meeting and the 12th Indo-Pacific Fish Conference	Social structure and behavioral patterns of breeding pairs and non- breeding individuals of Clark's anemonefish in an anemone-rich environment	111,560
19	董　書闖	東京海洋大学 海洋生物資源学部門 生産システム学研究室	准教授	44th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE? 2025)	A Numerical Hydrodynamic Analysis on Loads and Deformation of a Floating Closed Flexible Fish Cage	346,000
20	近藤　湧生	大阪公立大学理学研究科動物社会学研究室	特任助教	2025 Joint conference of the asian society of ichthyologists annual meeting and 12th indo-pacific fish conference	Initiation of courtship and spawning late at night in medaka during the breeding season in the wild	123,000
21	越後谷　駿	北海道大学電子科学研究所知能数理研究分野	特任助教（アンビシャス特別助教）	Theory and concepts in biology	Selecting anchoring sites in single-celled organisms, Stentor influenced by geometrical cues	237,000
22	岡本　葵	国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻	博士課程 1 年	ASM Microbe 2025	Characterization of released extracellular vesicles containing Lpp20 from clinical Helicobacter pylori isolates	285,000
23	山口　博則	大阪公立大学理学研究科物理学専攻分子磁性研究室	准教授	The 30th International Conference on Low Temperature Physics (LT30)	Realization of a spin-1/2 Kondo necklace model　with magnetic field-induced coupling switch	300,000
24	林　昭安	立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻	博士課程後期課程 3 年	The 30th Annual Congress of the European College of Sport Science	Effect of hypoxic exposure at different timings on iron regulation and hematopoiesis after endurance exercise	271,000
25	MONCHINSKI COURTENEY SUMMER	地球生命研究所、東京科学大学	博士課程 2 年生	Bienniel European Astrobiology Conference (BEACON)	Effects of water vapor on an impact-generated disk around Mars	333,000
26	柳　拓明	京都大学理学研究科生物科学専攻	博士後期課程 3 年	ＸＸＸⅤⅢ International Ethological Congress - Behaviour 2025	Prey handling behavior of earthworm-eating snakes	100,000
27	清水　大地	神戸大学大学院人間発達環境学研究科人間発達専攻	助教	Annual Meeting of the Cognitive Science Society 2025 (Cog Sci 2025)	Method for Quantification of the Process of Collaborative Creativity: Visualization of the Dynamics by C2RQA	308,000
28	倉田　大地	近畿大学大学院農学研究科	博士後期課程 2 年	XXXII International Conference on Polyphenols (ICP2025)	Unstable anthocyanin accumulation in Saintpaulia is epigenetically regulated and due to transcription selectivity of a single MYB gene	268,927

別表（3）2025 年度海外発表促進助成助成対象者一覧表

（単位：円）

No.	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	集会名称	発表題目	確定額
29	濱田　大幹	川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科	助教	The 30th Annual Congress of the European College of Sport Science	Predicting of drowning by using both VR video viewing before swimming exposure and heart rate monitoring system during long-distance swimming	302,000
30	長澤　竜樹	東京科学大学生命理工学院	助教	SMBE 2025 （Society of Molecular Biology and Evolution）	Convergent evolutionary deadend and breakdown of hard chorion in egg-guarding fish reproductive strategies	208,000
31	永井　邑樹	立命館大学生命科学部応用化学科	助教	32nd International Conference on Photochemistry	Anomalous thermal back reaction dynamics in the photochromism of thioindigo in the presence of alkylamide self-assemblies	301,000
32	長澤　真	産業技術総合研究所	研究員	Goldschmidt 2025 Conference	Speciation of rare earth elements (REEs) in ion-adsorption-type REE　mineralization in Japan by X-ray absorption fine structure spectroscopy	367,000
33	山本　明尚	東京大学大学院人文社会系研究科美学芸術学研究室	特任研究員（日本学術振興会特別研究員-PD）	ICCEES XI World Congress	Democratizing Musical Perception: Boleslav Yavorsky's Educational Ideals at the Moscow People's Conservatory in the Early 20th Century	319,000
34	谷川　慶一郎	東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構	博士後期課程 3 年	Plant Biology 2025	Moderate overexpression of PROTON GRADIENT REGULATION 5 improves photosynthetic performance and plant growth under fluctuating light in Arabidopsis thaliana	307,935
35	加藤　剛臣	沖縄科学技術大学院大学	日本学術振興会特別研究員	30th International Conference on Low Temperature Physics (LT30)	Extended van Hove Singularity in Kagome-Honeycomb Superconductor	303,000
36	張　米	東邦大学薬学部生薬学教室	博士研究員	32nd International Symposium on the Chemistry of Natural Products 12th International Congress on Biodiversity	Automated Annotation of Complex Natural Products Using A Modular Fragmentation-based Structure Assembly (MFSA) Strategy	273,000
37	飯笹　英一	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科社会・行動医学心身内科学	助教	19th International Congress of Immunology	FcRγ-Card9 signaling activated by GM-CSF facilitates the differentiation of bone marrow-derived macrophages induced by GM-CSF	331,000
38	高橋　龍之介	兵庫県立大学理学研究科	助教	Conference on Strongly Correlated Electron Systems 2025 (SCES 2025)	All-Optical Helicity-Dependent Switching in NiCo2O4 Thin Films	383,019
39	Ｆｏｓｓｅｐｒｅｚ　Ｃｈａｒｌｅｓ	北海道大学電子科学研究所知能数理研究分野	博士研究員	Oxford-Japan Symposium on Cell Behaviours	Cybernetic coupling for behavioral analysis	206,000
40	星野　太佑	電気通信大学情報理工学研究科基盤理工学専攻化学生命工学プログラム	准教授	The 30th Annual Congress of European College of Sport Science	Transcriptomic analysis of rat skeletal muscle after electrical stimulation with different frequencies	323,000
41	大森　文彦	東京科学大学	環境・社会理工学院 准教授	The 16th International Conference of Eastern Asia Society for Transportation Studies in Surakarta, Indonesia on September 2025	The Spread of TOD and the Impact of Corona in Southeast Asia	192,060
42	大坪　雅	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生態学研究センター本庄研究室	博士後期課程 3 年	2025 Annual Conference of the Canadian Society for Ecology and Evolution	Turnip mosaic virus infection suppresses aphid fecundity by altering physiology of its host, Arabidopsis halleri	267,000

別表（3）2025 年度海外発表促進助成助成対象者一覧表

（単位：円）

No.	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	集会名称	発表題目	確定額
43	土田　駿	新潟大学大学院自然科学研究科数理物質科学専攻	博士後期課程 3 年	the 30th International Conference on Low Temperature Physics (LT30)	Carrier Doping Effect on Excitonic Insulator (Ta1-xMx)2NiSe5 (M = Ti, Zr, Hf, Cr)	300,000
44	太田　玖吾	富山大学大学院理工学教育部ナノ新機能物質科学専攻	博士課程 3 年	the International Conference on Strongly Correlated Electron Systems 2025 (SCES 2025)	The physical properties of heavy fermion Ce2Pt6Al12Si3 at low temperature	328,000
45	門間　卓也	愛知学院大学 文学部歴史学科	准教授	7th International Conference Socialism on the Bench GLOBAL SOCIALISM AND NON-ALIGNMENT	Reexamination of Yugoslav Veterans' Involvement　in the Decolonization Struggles	225,000
46	竹田　響	京都大学大学院人間・環境学研究科	博士後期課程 3 年	23rd IOHA CONFERENCE	Rethinking the majority side of dealing with Oral History :reflections on overcoming colonialism and imperialism	297,000
47	細木　拓也	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター苫小牧研究林	日本学術振興会特別研究員	Congress of the European Society for Evolutionary Biology 2025	Genetic architectures preventing species fusion between the Japanese sticklebacks	400,000
48	荒谷　遥香	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻国際植物資源科学研究室	博士課程 4 年	20th International Plant Nutrition Colloquium	Genotypic variation in rice Fe toxicity tolerance and the attributable traits during germination and establishment	272,000
49	寺島　伊吹	東京都立大学大学院	博士後期課程 3 年	the 9th Asia-Pacific conference on Few-body problems in Physics (APFB2025)	Internal structure of X(3872) by compositeness with coupled channel potential	125,000
50	宮本　佳和	東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター	特任研究員	Anthropology Southern Africa Conference 2025	Entangled sacred places: War memories, ancestors, and wildlife conservation in north-west Namibia.	204,836
51	和田　智竹	横浜国立大学	日本学術振興会特別研究員 PD	XVII International Rotifer Symposium	Where are Bdelloid rotifers in the Snowy mountains during the summer? ? Life Strategies of cold-adapted Bdelloid rotifers in Alpine Environments ?	400,000
52	小手川　福笑	北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術専攻科	博士後期課程 4 年	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025 (Pacifichem 2025)	Demonstration of controllability of bistable photoreceptor proteins by upconversion nanoparticles with multiple emission peaks upon near-infrared photoexcitation	200,000
53	閤　乃箏	北海道大学水産学部	特任助教	Fifth Joint Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan	Acoustic characteristics of Japanese anchovy during sonar surveys	288,000
54	股村　真也	三重大学大学院生物資源研究科資源循環学専攻草地飼料生産学	博士課程 3 年	SciX 2025	The use of a single sample-type NIRS calibration to predict starch content across feces and feed, based on spectral preprocessing and wavelength selection	231,000
55	野沢　公暉	筑波大学数理物質科学研究群応用理工学学位プログラム	博士後期課程 2 年	MRS Fall Meeting2025	Vertically Aligned Multilayer Graphene for Flexible Electronics :　A Breakthrough in Graphene Architecture	320,000
56	吉澤　聡一朗	東京海洋大学	博士後期課程 1 年	5th Conference of the International Society of Fish and Shellfish Immunology	Organ-specific repertoires of immunoglobulin genes in a cartilaginous fish	148,000
57	栗原　崇人	千葉大学国際高等研究基幹／大学院薬学研究院薬化学研究室	特任助教	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025 (Pacifichem 2025)	Samarium-catalyzed reductive transformations using visible-light-antenna ligand	221,000
58	EGOROVA DIANA	東京農工大学連合農学研究科	博士課程 3 年	the 13th International Proteoglycan Meeting	Microglial Depletion Increases Hyaluronan and Aggrecan Levels in Brain Extracellular Matrix	149,706

別表（3）2025 年度海外発表促進助成助成対象者一覧表

（単位：円）

No.	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	集会名称	発表題目	確定額
59	宮本　大祐	富山大学学術研究部医学系(研究推進機構アイドリング脳科学研究センター)	准教授	Society for Neuroscience Neuroscience2025	Post-conditioning sleep deprivation facilitates fear memory extinction in male and female mice.	400,000
60	劉　コウ	愛知大学国際中国学センター	研究員	東アジア日本研究者協議会	Commemorating Repatriation in Museums: Exhibitions, Narratives, and Their Relationship with Local Communities	83,134
61	櫻田　直也	岐阜薬科大学創薬化学大講座アドバンストケミストリー研究室	薬学専攻博士課程 2 年	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025; Pacifichem 2025	Practical Precursor (Pd-80) for Preparation of Long-Lived Supported Palladium Catalysts uner Continuous Flow Conditions	192,000
62	坂口　怜子	産業医科大学医学部生体物質化学	講師	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025 (Pacifichem 2025)	Dynamic remodeling of TRPC5 channel-caveolin-1-eNOS protein assembly potentiates the positive feedback interaction between Ca2+ and NO signals	249,000
63	森井　椋太	東京大学農学部森林科学専攻森林動物学研究室	特別研究員	British Ecological Society Annual Meeting 2025	Sexual selection drives a latitudinal gradient: Evolutionary change in the reproductive trait of males due to male-biased operational sex ratio in Hynobius nigrescens	251,000
64	山口　永晏	高知大学大学院総合人間自然科学研究科応用自然科学専攻海洋動物学研究室	博士課程 2 年	5th Hawaii Pacific University Sea Turtle Workshop	The Features of Nesting Environment of the STRETCH Turtle Birth Beach	167,000
65	横田　信英	静岡大学電子工学研究所	准教授	The 70th Annual Conference on Magnetism and Magnetic Materials	Recent Progress in Understanding Polarization Modulation in Spin Lasers	347,000
66	伊藤　実央	埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科保健福祉学専攻	博士後期課程 3 年	Neuroscience 2025	Muscle-specific interventions may prevent neurophysiological abnormalities in subacute stroke	230,000
67	瀧川　晶	東京大学	准教授	The Fifth Pan Dust Conference: Dusty Universe 2025	How Water Ice Meets Silicate Dust in the ISM: Simultaneous Condensation in the Lab	295,000
68	西野　光太郎	広島大学大学院先進理工系科学研究科化学プログラム分析化学研究室	博士後期課程 1 年	The Internationl Chemical Congress of Pacific Basin Societes 2025	Dynamic interfacial tension measurement for the kinetic analysis of Ln(III) extraction in the NaNO3/tributyl phosphate system	220,000
69	Wutisirirattanachai Tassapak	創価大学大学院理工学研究科環境共生工学専攻	博士後期課程 2 年	CANVAS 2025	Nitrogen Fate in Soil after Application of Liquid Fertilizer Derived from Co-Hydrothermal Carbonization of Wet Biomass	248,984
70	川島　将人	九州工業大学教養教育院人文社会系	講師	2025 Australian Physiological Society meeting	Effects of fecal microbiota transplantation from exercised and/or inulin-supplemented donors on physical and metabolic parameters in diet-induced obese mice	202,000
71	寺尾　勘太	島根大学学術研究院理工学系	助教	XXXV International Congress of the Spanish Society for Comparative Psychology (SEPC)	Overview of learning and memory in the cricket Gryllus bimaculatus	274,000
72	冨安　洵平	帯広畜産大学	助教	18th Asian Society of Conservation Medicine Conference	First report of cutaneous scent glands, abdominal glands, in Japanese marten (Martes melampus)	187,000
73	富田　直仁	岐阜薬科大学大学院薬学研究科	4 年制博士課程 3 年	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025; Pacifichem 2025	Mechanochemical synthesis of cyclic carbonates via CO2 fixation	192,000
74	南條　毅	京都大学大学院薬学研究科薬科学専攻	講師	The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025; Pacifichem 2025	A sterically tuned 2-fluoropyridinium salt for the catalyst-free, visible-light-mediated deoxygenation of alcohols via an electron donor?acceptor complex	253,000

別表（3）2025 年度海外発表促進助成助成対象者一覧表

（単位：円）

No.	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	集会名称	発表題目	確定額
75	石村　大輔	千葉大学大学院理学研究院地球科学研究部門	准教授	International Sedimentological Congress 2026	Repeated observations of drift pumice along the coasts in the Southwest Islands, Japan: Implications for depositional process of drift pumice on beach	317,000
76	藤井　康之	立命館大学情報理工学部実世界情報コースインタラクション研究室	特任助教	2026 IEEE/SICE International Symposium On System Integration	Simulation-Based Evaluation of a Shape-Transformable Autonomous Surface Robot Switching between Traveling and Station-Keeping Modes	318,000
77	猪瀬　智也	産業技術総合研究所	研究員	International Conference on Nanoscience and Nanotechnology 2026	Fabrication and fluorescence evaluation of calcium phosphate nanoparticles immobilizing gold nanoclusters for macrophage imaging	321,000
78	中村　悠斗	東北大学工学研究科航空宇宙工学専攻	博士後期課程 3 年	AIAA SciTech 2026 Forum	Modal Analysis for Transient Flow with Time-Stepping Approach	218,000
79	齋藤　宏輝	東北大学大学院工学研究科附属先端材料強度科学研究センター	助教	International Thermal Spray Conference and Exposition (ITSC) 2026	Experimental and Numerical Study on Lightning-Induced Damage in Cold-Spray-Metallized Thermoplastic CFRP	205,000
80	山本　直樹	自治医科大学医学部生理学講座生物物理学部門	講師	BPS2026 - Biophysical Society Annual Meeting	Cryo-EM studies of curvilinear protofibrils: two amyloidogenic protein cases	312,000
81	斉藤　陸	埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専修	博士後期課程 2 年	Orthopaedic Research Society 2026 Annual Meeting	Comparison of Recovery Time Course for Spontaneous Healing vs Surgical Reconstruction in the Murine ACL Rupture Models	209,000
						20,610,919

別表（4）2025 年度笹川科学研究奨励賞受賞者一覧表

No	研究領域	助成者名	性別	国籍	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題
1	人文・社会	劉　明鍇	男	中国	九州大学大学院人文科学府東洋史学研究室	博士後期課程 2 年	南明勢力の日本乞師と朝鮮・対馬の情報交渉について
2	人文・社会	星　鐵雲	男	日本	立命館大学大学院社会学研究科応用社会学専攻	博士後期課程 3 年	「空襲」を記録する運動の歴史社会学
3	人文・社会	Ramos Manon Julie Chloé	女	フランス	京都大学大学院法学研究科法政理論専攻	博士後期課程 4 年	第一次世界大戦からの日本とフランスにおける内閣をめぐる思想および組織化（1914～1932 年）
4	数物・工学	KWON Hyukjin	男	韓国	東京科学大学大学院理学院物理学系物理学コース	博士後期課程 1 年	微視的状態方程式を用いた高速回転する中性子星の内部構造の理論的研究
5	数物・工学	亀田　智明	男	日本	関西学院大学大学院理工学研究科先進エネルギーナノ工学専攻	博士後期課程 2 年	ヤヌス遷移金属ダイカルコゲナイドの面外鏡面対称性の破れに起因する電子状態と応答現象に関する理論研究
6	化学	大山　央登	男	日本	大阪大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程 1 年	拡張ポルフィリノイドの配座変化を用いた近赤外光異性化分子の提案
7	化学	坪井　春樹	男	日本	高知大学大学院総合人間自然科学研究科応用自然科学専攻	博士後期課程 1 年	「安価で，誰でも，短時間で分析可能」な無機/有機水銀の分別定量法および小型水銀分析装置の開発
8	生物	戸室　幸太郎	男	日本	東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻	博士後期課程 2 年	ゴルジ体を舞台とする新規局所翻訳メカニズムの解明
9	生物	清水　佑馬	男	日本	大阪公立大学大学院理学研究科生物学専攻	博士後期課程 1 年	光による p-クマル酸の蓄積を介したエンドウ上胚軸の表皮・内部組織間の接着力増加機構の解明
10	生物	橘井　瑠伽	男	日本	宮城教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻教科探求(理科)	専門職学位課程 2 年	ウミコップ属のクラゲにおける配偶子放出タイミングの同調と多様性
11	生物	中西　健介	男	日本	広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻	博士前期課程 2 年	樹上性カエルの手足の指に特異的な骨格要素に注目したカエルの樹上性の起源の解明
12	生物	飯嶋　佑太	男	日本	東京農業大学大学院農学研究科生物資源開発学専攻	博士前期課程 2 年	高解像度分子系統解析および形質評価によるサトイモの進化解明とコアコレクション作成
13	複合	齋藤　虹南	女	日本	名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻	博士後期課程 1 年	天然溶岩と模擬実験から探る溶岩ドーム崩落型火砕流における溶岩の破砕
14	複合	馬塲　康太朗	男	日本	群馬大学大学院理工学府理工学専攻物質・生命理工学領域	博士後期課程 1 年	脂質-オレオシン非対称膜小胞内膜上における外部刺激応答型の多酵素複合体形成機構の構築
15	実践	野中　奏	女	日本	(福)地球の園こひつじこども園	保育教諭	こどもの探究心を育むビオトープの環境デザイン -異年齢児保育におけるカリキュラム開発-
16	実践	小粥　隆弘	男	日本	浜松科学館事業企画グループ	サイエンスチームリーダー	科学館における電子顕微鏡を活用した多様な利用者へ向けた教育プログラムの開発

別表（5）2025 年度日中未来共創プロジェクト　図書寄贈実績表

No.	寄贈対象大学	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	合計
		2025 年 5 月	2025 年 9 月	2025 年 10 月	2025 年 11 月	2026 年 3 月	
1	大連外国語大学					134	134
2	南京大学					166	166
3	黒龍江大学					201	201
4	中国医科大学					50	50
5	吉林大学					217	217
6	清華大学					2,587	2,587
7	広西師範大学					35	35
8	遼寧師範大学					20	20
9	大連理工大学					140	140
10	雲南大学					2,640	2,640
11	華東師範大学		19,011			415	19,426
12	北京大学					255	255
13	中国海洋大学					44	44
14	中南財経政法大学					193	193
15	浙江越秀外国語学院	10,110		5,367	842		16,319
16	武漢大学			265	174	48	487
17	東北師範大学			414			414
18	中国人民大学			26			26
19	上海外国語大学					115	115
20	華東理工大学			42		22	64
21	湖南大学			284		145	429
22	復旦大学			353			353
23	中国農業大学			46		102	148
24	西安外国語大学				3,000	686	3,686
25	雲南大学滇池学院				35		35
26	吉林外国語大学				608	118	726
27	暨南大学				1,783	459	2,242
28	東北財経大学				578	577	1,155
29	南京工業大学				1,100		1,100
30	延安大学					75	75
31	天津科技大学				217		217
32	北京外国語大学			1,551		600	2,151
33	石家庄学院				589		589
34	東華理工大学					284	284
35	黒龍江外国語学院					103	103
36	広東外語外貿大学南				1,640	1,178	2,818
	回数別寄贈合計	10,110	19,011	8,348	10,566	11,609	59,644

別表（6）2025 年度サイエンスメンタープログラム研究一覧表

No.	氏名	学校名	学年	性別	研究テーマ	メンター氏名 （アシスタント）	所属先
1	付　聖宣	聖光学院高等学校	3 年生	男	人の仕草を模倣するヒューマノイドのシミュレーション	東郷　俊太	電気通信大学
2	小松　和滉	長野県諏訪清陵高等学校	2 年生	男	三次元再構築の技術を用いたオジギソウの開閉度定量化	野下　浩司	九州大学
3	福田　莉子	神奈川県立川和高等学校	3 年生	女	ウマ介在活動がウマに与える影響	リングホーファー　萌奈美	帝京科学大学
4	上條　諒介	郁文館グローバル高等学校	3 年生	男	コンサートホールの立体音響をヘッドホンで再現するには	矢田部　浩平 （新美　智也）	東京農工大学
5	新井　伶菜	NIST International School in Bangkok	2 年生	女	カーボンニュートラルの実現に向けた CO 2（二酸化炭素）の回収、分離、再利用等に関する研究	藤田　貢崇	法政大学
6	松尾　紗花	徳島県立城南高等学校	2 年生	女	植物の創傷時に発現する蛍光物質の抽出と同定	豊田　正嗣 飛松　裕基	埼玉大学 京都大学
7	坂井　壮史	岩田高等学校	2 年生	男	死滅回遊魚ギンガメアジの水温による活動変化とネンブツダイを用いた予備実験	脇谷　量子郎	東京大学
8	内田　そら 樽屋　歩実 萩原　早咲	鹿児島県立国分高等学校	2 年生	女	バリウムの炎色光に関する研究	内野　隆司	神戸大学
9	加藤　龍之介 乙部　優貴 益田　幸英	徳島市立高等学校	2 年生	男	雨滴発電の実用性と応用性	大野　雄高	名古屋大学
10	中島　未英	N 高等学校	1 年生	女	生分解性プラスチック Green Planet のオンサイト分解に向けた条件の最適化と評価	宮本　憲二 （山本　果緒）	慶應義塾大学
11	坂間　琴	湘南白百合学園高等学校	3 年生	女	脳ナビゲーションシステムの劣化過程シミュレーションによるアルツハイマー型認知症の徘徊メカニズム解明	下村　寛治	国立精神・神経医療研究センター
12	森下　恵梨	東京家政学院高等学校	1 年生	女	温度が及ぼす感情への影響	品川　和志	国立精神・神経医療研究センター
13	近藤　千華子	筑波大学附属中学校	1 年生	女	アニサキスの成虫化における HPL の有用性	脇　司	東邦大学
14	四良丸　晟	武蔵中学校	2 年生	男	シマスズメダイの他種に対する追い回し行為について	益田　玲爾 （田島　雅倫）	京都大学
15	福田　愛莉	兵庫県立宝塚北高等学校	2 年生	女	暗号総合評価指標の実用化	伊藤　哲史 相川　勇輔	京都大学 東京大学
16	松谷　瑠南	洗足学園高等学校	1 年生	女	形状記憶ポリマーの使用による伸縮素材の開発	木村　睦	信州大学
17	狩野　雅人	旭川工業高等専門学校	3 年生	男	反射を利用した空中触覚提示システムの開発	東郷　俊太	電気通信大学
18	原田　麻由	茨城県立日立第一高等学校	2 年生	女	安全保障意識形成メカニズムから示唆される社会的表象の構造化と政策立案への応用	瀧川　裕貴	東京大学
19	塩田　理香子	神奈川県立川和高等学校	2 年生	女	ウマ介在活動がウマに与える影響	リングホーファー　萌奈美	帝京科学大学
	23 名	18 校			19 研究	メンター20 名・アシスタント 3 名	

別表（7）役員名簿

（2026 年 3 月 31 日現在）

役職	常勤・非常勤	氏　　名	就任年月日	現　　職（専門分野）
会長	非常勤	髙橋　正征	2020 年 6 月 30 日	東京大学名誉教授 高知大学名誉教授 (生態学)
常務理事	常　勤	石倉　康弘	2018 年 6 月 15 日	(公財)日本科学協会常務理事
同	同	佐々木 文君	2017 年 6 月 28 日	(公財)日本科学協会常務理事
理事	非常勤	川口　春馬	2012 年 4 月 1 日	慶應義塾大学名誉教授 (工学、応用化学、高分子合成)
同	同	和﨑　春日	同	中部大学名誉教授 京都精華大学アフリカ・アジア現代文化研究センター客員教授 (文化人類学)
同	同	渡邊　雄一郎	同	東京大学大学院総合文化研究科特任研究員 東京大学名誉教授 (生物学・分子生物学、農学・植物病理学)
同	同	石坂　丞二	2024 年 6 月 11 日	名古屋大学宇宙地球環境研究所特任教授 名古屋大学名誉教授 （生物海洋学）
同	同	須賀　利雄	同	東北大学大学院理学研究科教授 （海洋物理学）
同	同	原田　尚美	同	東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター教授 （生物地球化学）
監事	非常勤	菅井　明則	2016 年 6 月 10 日	(公財)日本財団パラスポーツサポートセンター常務理事
同	同	馬目　利昭	2020 年 6 月 30 日	馬目公認会計士事務所代表

※理事 木村龍治先生は 2026 年 1 月に逝去のため退任した。

別表（8）評議員名簿

（2026 年 3 月 31 日現在）

役職	常勤・非常勤	氏　　名	就任年月日	現　　職 (専門分野)
評議員	非常勤	門野　泉	2012 年 4 月 1 日	清泉女子大学名誉教授 (公財)東京財団政策研究所理事長 (英国ルネッサンス演劇､比較演劇学)
同	同	西原　祥子	2016 年 6 月 10 日	創価大学糖鎖生命システム融合研究所所長・教授 （糖鎖生物学）
同	同	境　浩光	2020 年 6 月 30 日	（株）科学新聞社代表取締役
同	同	竹本　和彦	同	（一社）海外環境協力センター理事長 東京大学未来ビジョン研究センター特任教授
同	同	中村　和生	同	北里大学名誉教授 （生化学）
同	同	山﨑　壮	同	実践女子大学生活科学部食生活科学科教授 （食品衛生学、食品学、天然物化学）
同	同	室伏 きみ子	2024 年 6 月 30 日	お茶の水女子大学名誉教授 ビューティ＆ウェルネス専門職大学学長 （細胞生物学、生化学、科学教育）
同	同	吉倉　和宏	2025 年 7 月 28 日	(公財)日本財団　常務理事

2025 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第３４条第３項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

前記のとおり相違ありません。

２０２６年 5月 8日

公益財団法人 日本科学協会

代表理事（会長） 髙 橋 正 征

２０２５年度事業報告は、法令及び定款に従い、本会の状況を正しく示しているものと認めます。

理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

２０２６年 5月１８日

公益財団法人 日本科学協会

監 事 菅 井 明 則 印

監 事 馬 目 利 昭 印